昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和45年2月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.6
1970
february



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

株式会社 **ヨネヤマラケット**

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

「バドミントン界」《第六号》

競　技　会

▼第一回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント……2
▽全試合評　▽観戦記……竹市行男
▽選手紹介　▽選手の話　▽ヘアピン
▼第五回全関東教育系学生選手権……7
▼東京都高校新人戦……7
▼ト杯アジア・ゾーン、インドネシア試合放棄……29

写真グラフ

〈全日本総合選手権〉から……17
≪　≪　≪　≪

▼ユ杯チームが朝日体育賞を受賞……14

特集企画

〈新春座談会〉日本協会首脳陣ことしの決意……8
〈70年代、期待の新人をさぐる〉……12
〈年頭に当たって〉日本協会会長、本田弘敏……6

連載企画

〈百万人のバドミントン上達法〉……15
▼柔軟性のトレーニング（中高校編）……遠井稔男
▼フットワークについて（幼少編）……伊藤基記
▼続・サービスの重要性（上級編）……毛利清志
〈私の場合〉シャトルへの執念……佐藤芳郎……23
〈理事長対談〉第五回……前田　豊氏……1

よみもの

〈スポーツ・サロン〉……24
▼各紙に見る44年度10大ニュースから
▼スポーツと心理学（中）……後藤忠弘
▼提言シリーズ第一回（健康管理）……盛川　宏
〈北から南から〉……28
▼舞鶴、百人に一人が選手……池部勝美
▼スポーツ用品、売れゆきトップはバドミントン

質問箱……30　　表　紙……36
ルール100問……31　　おしらせ……36
ランキング……36　　編集後記……36
〈RECORD〉全日本総合詳報ほか……32

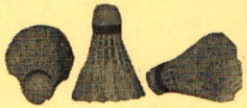
表紙／撮影・松井亮磨／デザイン・小浜正道
カット／おおば比呂志・秦浩／題字・今井由紀子

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





ファスト印シャトル
コック製造発売元 有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362 (2) 3994

理事長対談…⑤



日本体育協会競技力向上委員長
日本バレーボール協会副会長

前田　豊氏

ききて……川端昇市

高い山ほど裾野は広い

大目標を設定チャンスを逃すな

前田　バレーの道に首を突っこんで四十年になりますが、むかしのバレーは、試合をやっても、選手の方が観客より多いくらいでね。出番の終わった選手は、ラインズマンをつとめたり、線引きをやったり、一人何役でした。

それで、なんとかこの〝マイナー・スポーツ〟を〝メージャー〟の域に引き上げたい、そればかり考えましたね。

川端　それをどうやって伸ばしたのか――。

前田　私の経験でいうと、まず笑われてもいい、夢みたいな大目標を立て、ホラを吹いたですね。〝百万人のバレー〟をキャッチ・フレーズにしたのは昭和二十三年です。自分でいい出せば、やらざるを得ない。

川端　努力の積みかさねですね。

前田　まずアドバルンをあげてやる方が、実現の速度が早い。

川端　ジャングルを切り開いてレールを敷いていく役目の人の度量、勇気、確信……。

前田　それと、あらゆるチャンスをつかむことですね。

いまテレビでものすごい視聴率をあげている〝サインはV〟あれが少女雑誌に出る前、出版社関係の人が私のところへ見えたんですが、そのとき、私は自分の方から『子供に一番のPRになるし、夢を追うようになるから、是非やってほしい、非常にけっこうな話だ』といったんです。

川端　なにかチャンスをつかむひらめきも大切ですね。

前田　それは、スポーツに対する姿勢から出ると思うんですよ。自分の仲間うちだけでやっていればいいんだ、という人もあるだろうが、私は協会というのは競技を普及発達させることが大使命だと思う。だから、目をサラのようにして、なんでも普及発達の材料にしてしまう。ただアマ規定を犯してはいけない。といっても規定はスポーツの発達、普及のために役立つものでなければ。

川端　組織は選手、愛好者のもので、役員はそのお手伝い。

前田　そう。だから試合の運営にしても、ドラマの演出家のチエを借りるとか。

川端　私どもも、今後、コスチュームのファッション・ショウなども取り入れようと…。

前田　スポーツを発達させるには、世界をとる、勝つということが最高の手段です。頂点が高くなければ底辺はひろがらない。

ママさんバレーがいま三十万人といわれるが、動機は東京五輪のニチボーの〝魔女〟に刺激されたというのが圧倒的だ。

川端　そういう意味でバドミントンは社会体育にも最適と思っているのですが。

前田　この二十年、日本人の平均身長が男子で5㌢、女子で3・1㌢のびた。そのうちスポーツマンは男女とも10㌢ぐらい大きくなっている。

ところが、競技人口はまだまだ。ソ連、チェコは総人口のうち17％ものスポーツ人口を持っているが、日本は一億のうち五百四十万（中学生以上）5・4％です。日本体育協会の青木専務理事はこれを一千万人にしたいと目標をかかげた。実現は各競技団体の努力ににかかっている。

川端　アマ団体の財源は頭のいたいところですが。

前田　入場料収入をあげることを考えないと。バレーが最初入場料をとったのは三十年ほど前の早慶戦。私は当時、学生で女学校にコーチに出かけ、謝礼代わりに入場券を買ってもらった。まず熱意。使命感に燃え、一生の仕事と思ってやってくれる人を何人つくるかが勝負でしょうね。

第1回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

湯木が〝初代実力日本一〟に

フル・ゲーム、竹中またも善戦むなし

湯木が初代〝女王〟の座に―新春を飾る第一回全日本女子チャンピオンズ・トーナメントは一月四日午前十一時から日本協会の所在地、東京・岸記念体育会館地下三階の特設コートで行なわれた。

これは東京12チャンネル・テレビ、日刊スポーツ新聞の後援で実現したもので、44年度の各種大会の女子優勝者だけを集め〝チャンピオンの中のチャンピオン〟を決めるという、アマ・スポーツ界でも初の企画。

残念ながら、高木（東海女短大教＝全日本教職員優勝）相沢（新潟青陵短大＝全日本学生複優勝）の二人がカゼで欠場、参加者は六人になったが、あいだにエキシビションもまじえ、白熱した好試合を展開した結果、全英、全日本、全日本学生の三大タイトル保持者、湯木（日女体大）がライバル竹中（新潟青陵短大）をくだし〝実力日本一〟の初代女王となった。

準決勝、決勝はテレビでナマ中継され、競技終了後、湯木選手には12チャンネルと、日本協会森友副会長寄贈の輝くカップ二つが手渡されたほか、全選手に美しいタテが贈られた。

日本協会としては、この大会を永続させ、さらに充実させていく考えである。

柴山、太田を下す殊勲

▼一回戦

柴山 2（1111―9）0 太田

第一ゲームは接戦した。すべり出し、柴山はロング・ハイ・サービスが決まらず、一方の太田も、攻撃にキメ手を欠いたため、サービス権がめまぐるしく動いて一進一退。

4オールから柴山はサービスをショートに切りかえ、転機を見い出そうとしたが、太田もよく粘って9オール。ところがセッティング後、太田はバックのドライブ、ヘアピンを続けてミス、このあと柴山のドロップがエースとなって、ゲームは柴山にころがりこんだ。

第二ゲームにはいると、柴山の前後のゆさぶりがペースにのり、5―4から一気に6点を連取して試合を決めた。

クリーヤーからドロップ、ヘアピン、そして浮きダマをスマッシュという柴山の正攻法の配球が光った。

太田はパンチの割りにスピードが甘く、打球のタイミングがワン・テンポ遅く、このストロークのスピードの差が明暗につながった。

（東京新聞・後藤忠弘）

勝負は最後の一本

▼一回戦

小片 2（12111―1112）5 高崎

高崎は第二ゲーム中盤からよく盛り返し9オールのセッティング。0―2とマッチ・ポイントをとられながら、一気に3点を連取して、勝負をファイナルに持ち込んだ。

ファイナルは両者ともエンジン・フル回転で大接戦、小片が早いタッチで小柄な高崎をゆさぶろうとすると、高崎はこれをネットにのがれ、一発のミスもできない状態。これまた9オールのセッティングから、今度は逆に高崎が0―2とマッチ・ポイントを握ったが、小片、必死にくいついて2―2、文字どおりに一本勝負となった。

お互いに3本のマッチ・ポイントをのがしたあと、シャトル交換があり、その直後の高崎のサービスはバック・ラインをわずかに越し、チェンジ・サービス。四回目のポイントをつかんだ小片が高崎のバック奥を深く攻めると、高崎の放ったドロップは無情にもサイド・ラインを割り、40分の熱戦にピリオドを打った。

どちらにも勝たせたいゲームだった、と同時に、サーブの重要性をみせつけられた一戦だった。

（主審・山本洋彦）

▼エキシビション

高崎 2（1112―610）0 太田

湯木 2（1515―910）0 小片

竹中

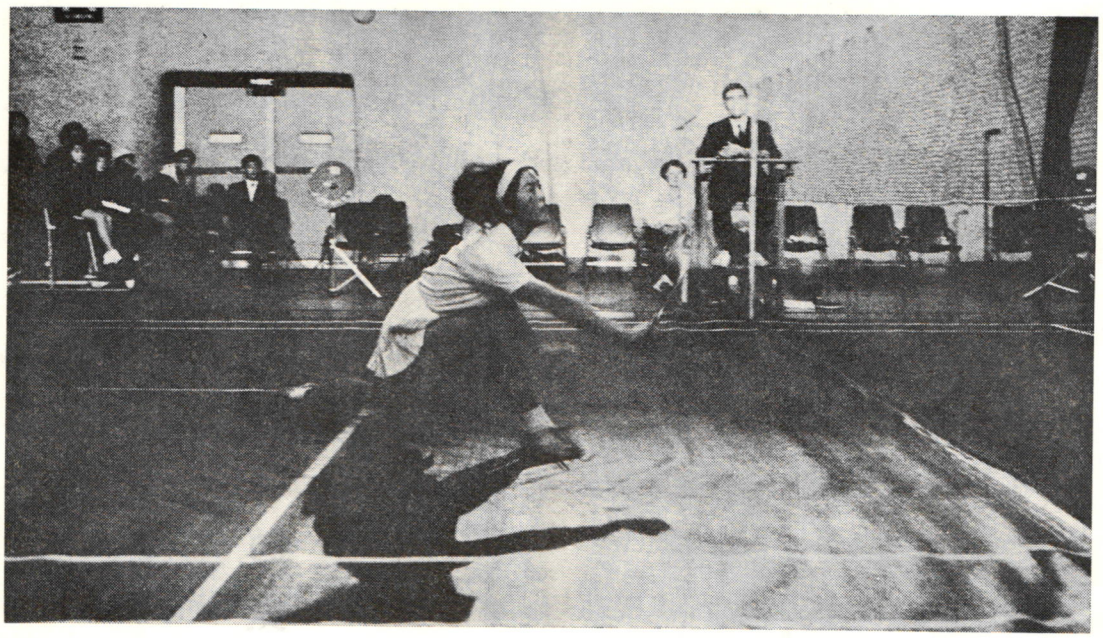


みんな〝佐藤さん〟のせい？

この大会は最初、年末の十二月二十八日（日）に行なわれる予定だった。ところが二十七日が総選挙、翌日は開票速報でテレビは中継時間がフイになり、涙をのんで一週間くり下げられた。このため準備もやり直し、出場予定選手も昭（社会人大会優勝）が結婚の準備？高橋（前年全日本優勝）が手首の故障再発、高坂（青学大）が帰郷などで二転三転するあわただしさ。関係者一同「これも、佐藤さん（首相）が悪いのよ」と、うらむまいことか。

ぎっしりのミニスタンド

このため、会場も三千人はた



◀柴山（東大阪高）けんめいのレシーブ

エラーの差が明暗分ける

▼準決勝

竹　中　2（1111―3　6）0　小　片

そろってダブルスが得意。全日本選手権2連勝の竹中と、その竹中組を破って昨年八月の国際学生選手権（マニラ）代表となった小片。

スタートはともにかたくなって得点のないままサービス・オーバーを繰り返えす。だが、竹中の攻撃力が上まわった。スマッシュ、ドロップ・ショットが決まり出すとペースは竹中のもの。

第一ゲーム5―0とリードのあとも攻撃の手を休めず10―3から一気にきめた。

第二ゲームは後半小片にエラーが出て勝負は簡単についた。竹中7―6とリードのあと、小片はクリアーまでエラーし、すぐ10―6、マッチ・ポイントを一度逃がしたが、小片のバック・ハンド、ドロップ・ショットが続けてネット、あっけなく終わった。

ウエスタン・グリップで〝くせのある選手〟小片もエラーが続いてはその特長を発揮するチャンスがなかった。（報知新聞・吉広紀代子）

わあ、申しわけない　ていねいにつなげば

小片選手の話　わあ、申しわけないわあ、せっかく呼んでもらったのにヘタな試合で。ちょっとランニング・スコア見せて下さい。第二ゲーム6―3から少しいそぎすぎた？　エラーが3本続けてあったの？そうかもしれないわね。でも竹中さんには体力負けもあるわ、背も低いし。

竹中選手の話　（小片の話の途中から）あのね、結局、いまの時点、お互い練習不足しているでしょ、だから、早く決めようと思って、どうしても焦っちゃうのよ。あと一、二本、たんねんにつなげば、展開がちがってたかもネ。小片さん、スナップきかした独特のショットを、もっと生かせばいいと思うわ。

っぷりはいる国立代々木第二体育館（五輪バスケット場）から岸体育館に変更。お正月なのでファン集めに、東京都内の全部の中高校に「あっとおどろく豪華な顔合わせ」と案内状を出したところ、早朝からママやパパをひっぱり出した小中学生の豆ファンが大勢おしかけ、係りのねらいはズバリ的中。三百五十という、こじんまりしたスタンドがたっぷりうずまった。

本誌も飛ぶ　売れゆき

一方、会場入り口に並べた本誌「バドミントン界」も、お年玉をもらって、ふところのあったかい、豆ファンにひっぱりダコ。「あのう、第4号がなくなっちゃったんですけど」と試合開始前、早くも受け付け係りがとんでくるほど。試合が始まると、のべ六時間の長丁場にもかかわらず、ファイン・プレーの連続に、タメ息をもらしながら、さかんに拍手を送り続けた。

豆ファンの　打ち始め

試合が終わると、大会当局のサービスで「ラケットをお貸しますから、みなさん、しばらく

◉柴山先行及ばず◉

▼準決勝

湯　木2（1211―10　6）0柴　山

昨年、全英選手権、全日本総合、全日本学生と三つのビッグ・タイトルを獲得した湯木は、昨年初めて高校チャンピオンになったばかりの柴山にくらべると、あらゆる面で役者が一枚上だった。

第一ゲーム、湯木はあいかわらずのスロー・スターターぶりを発揮して3―1と柴山のリードを許したが、以後、柴山が心理的に逃げたのか、コーナーをねらいすぎてミスをくり返したのに乗じて11―6。

第二ゲームは5―5から柴山が5ポイント連取して場内をわかせたが、落ちついてプレーした湯木は、スピードを殺した急角度のスマッシュを左右に散らして追いつき、11―10から、最後は豪快な強打でとどめをさした。

竹中の気迫を買う

▼決　勝

湯　木2（11―7　1011―12　3）1竹　中

決勝戦にふさわしい好試合だった。第一ゲーム、湯木は竹中の調子がでないうちにリードし一方的に勝った。

第二ゲームに入ると、前半、竹中は第一ゲームの延長でクリヤーをミスしたり、ネット・フライトをミスしたりしたが、後半、6―9から一気に9オールのセッティングに追いついた。

湯木の練習不足はあったにしても、第一ゲームの後半、第二ゲームの中盤などで相手のプレーがラフになったところを、たくみについた柴山に成長のあとが感じられた試合だった。

（読売新聞・小林範夫）

竹中のスマッシュが冴え、ていねいにコーナーをついて、湯木を攻めたのが成功していたようだ。

第三ゲームは、湯木のクリヤー、ドロップのミスが気がかりだったが、2―3から逆に5―3とリード、後半も、常に冷静な試合運びをみせ、押し切って勝った。湯木の実力勝ちであった。

しかし、竹中の第二、三ゲームの気迫はすさまじく、素晴らしいものであった。

竹中の気迫、湯木の冷静さ、沈着さは、全プレーヤーの手本となるべき態度のように感じられた。

（主審・岡村英男）

しんどかった

湯木選手の話　ああ、しんどかった。わたし？調子よくないかなあ、でも竹中さん、うまかったわ。うーん、スマッシュ封じるため、前へ前へ引っぱり出したんだけど、彼女まだネット・フライトは弱いとこあるね。

これで三度やって三度勝った今度が一番きつかった。

竹中選手の話　（残念そうに撫然とした表情）第二ゲームのときはネットも後陣も、うまく処理したんだけどなあ。結局は前後のゆさぶりにやられてしまった。でも、大事なところで、湯木さん、エラーしないもの、どうにもなりません。

≪出場選手紹介≫

湯木博江　山陽女高出、日本女子体育大三年▽43年マレーシア・オープン単1位、複2位、シンガポール・オープン単2位複1位▽44年全デンマーク単1位、複2位、全英単1位、複3位、全日本学生単1位、複2位、全日本総合単1位

竹中悦子　金沢二水高出、新潟青陵短大二年▽43年マレーシア・オープン複1位▽43年国際学生（マニラ）単1位、複1位全日本学生単2位、複1位、全日本総合単2位、複1位

△　△　△　△

太田節子　真岡女高出、トヨタ自動車工業▽44年全日業実業団単1位、複1位、全日本社会人単2位

小片千恵子　善通寺一高出、日本体育大二年▽44年国際学生（マニラ）単3位、複2位、全日本学生単4位、複4位、関東学生新人戦単1位、複1位

柴山きよ子　東大阪女高三年▽43年全国高校団体1位、単1位、複1位、国体団体1位▽44年全国高校団体1位、単1位、複1位、国体団体1位

高崎弘子　東大阪女高三年▽44年全国高校団体1位、単4位、複1位、国体1位

△　△　△　△

自由に遊んで下さい」というアウンス。

中高校生たちは、いっせいにおねえさん選手たちの熱戦のほとぼりさめぬコートに出て〝西洋ハネつき〟の打ちぞめ、なかにはドロップやカットをたくみにこなす名手もいて、小片選手「あら、私よりよっぽど、うまいじゃない」とがっくり。

湯木さん、人気のマト

優勝した湯木選手は少女ファンあこがれのまと。大会が終わると、さっそく「バドミントン界」にサインのおねだり。「中学生のころは、どんな練習をしてたんですか」と熱心に聞き、「一度でいいから、コーチしてもらいたい」とおねだり。「事情が許せば、協力します」との返事に「うわあ、夢みたい」と大はしゃぎ。

〝超即席〟のダブルス登場

気の毒だったのは出場選手たち。高木、相沢の欠場で二試合が減ったため、その分を埋めるため、急ぎエキシビションが計画された。

一回戦が終了した直後、湯木

観戦記

まずは及第点のスタート

集まった少年ファン

共同通信
竹市行男

PR不足気味、その上新春早々のチャンピオンズ・トーナメントだけに観客が集まるかと心配した。しかし収容能力が少ないといえ、岸体育館にほぼ満員の三百五十人のファンが集まりホッとした。第一回大会のスタンドががら空きの会場で行なわれるのでは何ともサマにならなからだ。

大会の成功、不成功は「お客の入りでほぼ決まる」といわれる。その点では一応成功したといえよう。というのは二つの要素から考えて主催者には気の毒だが僕はあまり〝入り〟は良くないと思っていたからだ。

第一に岸体育館があまり一般ファンにとってなじみがない。それに〝アングラジム（地下体育館）〟ということ。これでは会場を探すだけでひと苦労するからだ。第二に正月四日という時期だ。

この頃はいろんな楽しみ、催し物が多い時、それに加えてPR不足と来ては…。よほど熱心なファンでない限り「見に行こう」という気を起こさないだろうから。

そんなファンが、いったい何人ぐらいいるのか——そんな意地悪な期待を持って会場へ行った。しかし前述の通り〝予想外〟の観戦者にビックリすると同時にありがたいとも思った。

残念な二選手の欠場

会場は若い年代の人が大半。それに中年層がかなり含まれていた。またこれまでのどの大会でもあまり見受けられなかった専門的なスコアをつけている人が三、四人いるのに、「さすがに〝通〟が集まったもんだ」と感心した。

だが試合そのものはある程度ファンの期待を破るもの。残念だった。まず高木、相沢の病気欠場。それに、試合内容がいまひとつ盛り上がりに欠けたことだ。欠場の理由が病気とあっては責めるわけにはいかないが、今後はコンデション作りに細心の注意をはらってもらいたいものだ。

後者はその時の試合によって激戦もあれば、凡戦もあるのは当たり前の話。しかし今大会は凡戦とまでいかなくとも淡白の試合の連続だったといえる。そんな試合の中で光ったのは、やはり湯木—竹中の決勝戦。

光った決勝戦

第一ゲームは湯木が5—3から竹中のストロークの乱れで連続6ポイントを奪い、あっさりものにした。第二ゲームもこんな調子の試合かな、と気になった。しかし竹中が粘りでセット・オールに持ち込んだのはさすが。と同時に湯木にも気迫の欠けた点があったといえる。

このゲーム、竹中は好スタートを切った。だがどうしても自分のペースで試合ができない。いくつかのチャンスをつぶし、6—9とまたピンチ。その後の立ち直りが見事だった。

一方、湯木は〝いける〟という気が出た。こうなると、プレーがどうしても消極的になる。フォアをネットしたり、中途半端なショットで9オールにこぎつけられた。

追い上げる竹中はやっとここでペースを取った。セッティング後は竹中が先手を取り、10オールから敵失でタイにこぎつけた。しかし竹中の善戦もここまで。ファイナルは湯木が強打とスピードで竹中を圧倒した。

観戦していた森友協会副会長は「竹中に湯木攻略の進歩が見られた。一ゲームを奪った自信は大きい。それを今後にどういかすか楽しみだ」という。

競い合い、互いに相手の長、短所を研究し、自分を磨いてこそ高度な技術、卓越した作戦、強い自信が生まれるもの。その点では湯木、竹中、そしてこれに続く若手が積極的に技を向上させ、より高度なプレーをものにしてもらいたい。

・竹中×小片・柴山という、生まれて初めて組んだ〝超即席〟ダブルスが対戦したが、さすがは第一線選手、なかなかの名コンビぶりで拍手をあびた。

ついで登場したのが、太田×高崎のシングルス。「エキシビションだから、ほどほどでいいよ」という役員の〝耳打ち〟にもかかわらず、いざコートにはいると、血がカッカと燃えたって文字どおりの真剣勝負。

「せっかく、いいチャンスに試合させてもらったのに、一生けんめいやって、できるだけ勉強していかないとソンですからネ」と汗だくで両選手。

森友杯は〝十年保証〟つき

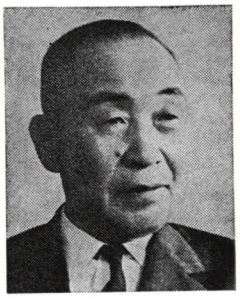
この大会の優勝杯は二つ。12チャンネルからのものは返還不要、もらいっぱなしという、うれしいカップ。もう一つは日本協会副会長寄贈の〝森友杯〟。この方は持ちまわりだが、台座に優勝者の名をきざんだプレートが十枚貼れることになっており、いわば〝十年保証つき〟。

両カップをながめていた某報道陣「お酒一升はいるかな、ぐっとのんでみたいよ」と新春らしい冗談。

年頭に当たって

限りなき前進のために

日本バドミントン協会長
本田弘敏



輝ける年、一九七〇年を迎えるにあたり、全国会員ならびに愛好者の皆様に心より年頭のご祝詞を申し上げます。

この七〇年代のわが国が、あらゆる分野において全世界より注目を浴びていることは周知のとおりであります。このことはスポーツ界においても決して例外ではないと私は考えます。

特に我が競技〝バドミントン〟が昨年、女子チャンピオンの座を保持したということは、そういった意味では非常に意義あることと思うのであります。

ユーバー・カップの防衛成功と大会運営の完遂

昨年度は日本バドミントン協会にとりまして大きな試練の年でありました。それはユーバー・カップを防衛するということと、大会開催という事業を成功させるという二つの使命を、しかも同時に満足させねばならぬということでありました。

しかしながら幸いに、ユーバー・カップは今井監督以下、選手団の全員のたゆまぬ努力と精進で見事防衛に成功し、また大会の運営も役員各位の総力結実により無事に、しかも立派に開催できたということは、世界に日本のバドミントン界の底力を誇示したものと私は自信を持って言えることだと思っております。この上、第二次、第三次の防衛に向って、より一層の努力と結束を固めねばならぬことを肝に命じたいと思います。

トマス杯への挑戦

女子がチャンピオンの座を保持した現在、人々の目は男子に集中しております。

本年はその男子陣に願ってもないチャンスが訪れます。いうまでもなく男子世界選手権（トマス杯）大会開催の年であるからであります。

日本は昨年、すでにアジア東地区の代表を果しており、この二月にはアジア地区決勝大会が開かれる予定であります。男子はマレーシア、デンマーク、タイ等の強豪がひしめき、決して安易な道とは思えません。

しかし、日本のバドミントン競技界という車輪は、男・女両輪が揃って初めて回転を始めるのです。選抜された男子役員・選手団の一層の奮起を期待するところであります。

国内各大会の充実と組織の強化

世界に飛躍するには、その基盤というものが必要であり、充実していなければなりません。

それには、国民体育大会をはじめ全日本総合大会など日本協会の主催する主要な大会はいうに及ばず、それ等につながる諸々の大会をも重視し、素質ある選手の発掘と地方指導者養成、用具向上等、質量ともに底辺の拡大を計るなど、これら日本協会が果すべき課題はまだまだ山積されているのであります。

また組織面においても、より一層の強化と、中央・地方のアンバランスが無きよう相互の意志の疎通を密にし、目標をしぼり、これらの問題を一つ一つ着実に処理し、名実共に世界のリーダーたる立場を確立せねばならぬと思うのであります。

社会体育としてのバドミントン競技の自覚

昨今、世間では、社会体育ということばが大きく叫ばれてきております。

国民所得の増加と、労働時間の短縮により生じつつある余暇を、国民は健康増進、社会福祉の一環としてのスポーツへ向け、また関心を深めつつあります。

その中にあって、親しみやすさ、気易さを兼ね備えた〝バドミントン〟はその将来性において多大の期待を持てるスポーツであり、それだけにその使命も大きいのであります。

本年は社会体育としてのバドミントン競技、といった問題にも取り組むべきであると思います。

マスコミとの協調

ユーバー杯大会の成功の陰にマスコミの協力が多大であった事実は今さら申すまでもありません。見せるスポーツへの脱皮が競技発展への道といわれる今日、ユーバー杯大会において良き教訓を得た当協会は今後も門戸を大きく開けて、マスコミの全面的な協力を仰ぎたいと思っております。

一九七〇年、どうか今年も日本バドミントン協会にとりまして素晴しき年となりますよう、皆様とともに祈りたいと思います。

初春

明本薫

シャトルいま初日をきりて落ちにけり
ラケットは兄のお古のお年玉
初打ちの晴れ着の裾の乱れかな
初打ちの親子の歩調まだ合わず
初春は松の緑に白き羽根

《第5回全関東教育系学生選手権》

湯木、実力通り単・複を制す

男子は今井（早大）門間・木戸組（日体）

第五回全関東教育系学生選手権大会が、さる十二月二十日、二十一日の両日、千葉市の県営体育館で行なわれた。

この大会は、将来、学校教育にたずさわる見込みの学生を対象としたもので、バドミントンの技能の向上と、大会運営能力とを身につけてもらうことを目的としている。

大会日程は二日間と短かいため、男女単複の個人戦のみで団体戦はないが、かなり忙しく、第一日目などは優勝までに最低五回は戦わなければならないというハード・スケジュール。

両日とも、よく晴れあがり、さんさんとふりそそぐ？西日に選手は、うらめしや?!の表情。それとは対象的に、館内は大変な寒さ。審判員や本部役員など先輩の諸先生方は、ヒザがガクガクなりっぱなし、お気の毒な年末大会だった。

〝教師のタマゴ〟の集まりとはいっても、関東の一線級学生の大半がからんでいるため、レベルはインカレにも劣らないもの。

女子は予想どおり湯木（日女体大）が強く、シングルスでは関東学生新人戦の〝女王〟小片（日体大）を破り、二度目の栄冠。ダブルスは本間と組んで初優勝した。昨年のシングルス優勝者・本間は準決勝で小片に苦杯を喫し、三位にとどまった。しかし同選手はダブルスは二連勝（前年のパートナーは浦口）。

男子シングルスは新鋭今井が初優勝、ダブルスは門間・木戸（日体大）が二連勝した。

（記録の詳報はレコード欄に）

▼男子シングルス決勝

今井（早大）2（11—0）0杉本（葉権）

▼男子ダブルス決勝

門間・木戸（日体大）2（1715—1512）0今井・及川（早大）

▼女子シングルス決勝

湯木（日女体大）2（1112—9）0小片（日体大）

▼女子ダブルス決勝

湯木・本間（日女体大）2（1515—1212）0浦口・谷沢（日女体大）

◇東京都高校新人戦◇

日大鶴ケ丘、桐朋女に栄冠

東京都高校新人戦大会（都高体連バドミントン部主催、都バドミントン協会共催）は一月十一、十五、十八の三日間、豊島、目黒の両体育館で開かれた。

種目は団体（2複3単）と単で、いずれも三年生を除き、特に単は44年度の春、秋、新人戦の団体戦に出場しなかったものを対象にした。

都高体連は42年度から、部制（現在は四部制）をしき、底辺の拡大につとめているが、その成果か今回の参加数は団体男子24、女子39、単の男子121、女子262と空前の規模となり、本部は運営にうれしい非鳴をあげた。

男子団体は日大鶴ケ丘高が決勝で聖学院をくだし、女子団体は桐朋女高が都立三商を破ってそれぞれ優勝した。（概評）日大鶴ケ丘教・前田耕作、桐朋女教・竜井昇治）

◆男子団体

▼準決勝

日大鶴ケ丘 3—1 堀越高
聖学院 3—0 都中野工

▼決勝

日大鶴ケ丘 3—1 聖学院

◆男子個人 ▼一組①中津（都昭和）②森下（聖学院）▼二組①関谷（都志村）②田口（板橋）

男子団体の日大鶴ケ丘、聖学院は今夏の全国大会めざしライバル意識を燃やしているだけに決勝は迫力があった。ダブルス1—1のあと、第一シングルスは聖学院のエース永吉×鶴ケ丘の二番手ながら進境いちじるしい関谷。ファイナルにもつれこんで関谷がとったあと、最後は鶴ケ丘のエース市村が聖学の高木をストレートにしりぞけた。

個人戦には、わざわざ団体戦に出ず、これに優勝をかける選手もいるくらいで、準々決勝あたりからは実力迫仲、好試合が多かった。一、二組優勝の中津、関谷は一部高の選手に劣らぬ、卓越した技量を持っていた。

トキワ松個人を独占

◆女子団体

▼準決勝

桐朋女 3—2 十文字
都三商 3—1 巣鴨女商

▼決勝

桐朋女 3—1 都三商

◆女子個人 ▼一組①浅川（トキワ松）②金子（巣鴨女商）▼①吉池（トキワ松）②並木（巣鴨女商）▼三組①中村（トキワ松）②藤井（蒲田女）▼四組吉田（トキワ松）②平田（女子聖学院）▼五組①蜂屋（トキワ松）②犬束（同）

女子団体は一部校の戦力後退が目立ち、ベスト4に二部校二チームの進出を許した。優勝の桐朋女は昨年度大会優勝以来の同じ戦力でのぞんだが、同時期に行なわれた全国高校選抜合宿に主力を出した関係で、途中かなり苦しんだ。二部校の都三商、トキワ松、十文字の健闘をたたえたい。

単は参加者多数のため五組に分けたが、トキワ松が一位を独占、力と層の厚さを見せつけた。今後が期待される。（記録詳報次号に）



新春座談会 バドミントン界前進のために

日本協会首脳陣、ことしの決意

（題字）今井由紀子（カット）秦　浩

出席者（発言順不同）

日本協会理事長	川端昇市
同	常務理事	相場清一
同	常務理事	伊藤基記
同	常務理事	伊藤鉱一
同	常務理事	上原正士
同	常務理事	菊地利明
同	常務理事	小飼栄一
同	常務理事	佐藤芳朗
同	常務理事	松本弘充

科学的研究に着手

公認指導制度の確立も

底辺から頂点まで

A　協会にとって一番大切なのは、競技人口をふやし、しかも、より強く、よりいい選手をつくっていくことですね。

そこで、仕事は二つある。いわゆる底辺を拡大すること、もう一つは、ユ杯、ト杯の代表をふくむ頂点の強化。基盤となる部分は当然、指導委員会がこれまでより強力にがんばるわけだが、もう一つの部分は、今年から競技力向上委員会（仮称）が正式スタートするので…。

B　底辺を受け持つ方としては、今年は具体的には三つほど新しくやりたいことがある。第一に公認指導員制度の確立。よい選手をつくるには、よいコーチ、指導者が絶対、欠かせない存在です。拙速に案を立てていかんので、いま検討中ですが、少なくとも第一歩ぐらいは印したい。

C　サッカーは、専任コーチ（実質的にはプロ）制をすでに敷いているし、バスケット、バレーなどでも同様の研究をしているらしい。そこまで行かぬまでも、ちゃんとした資格のある人をつくらないと、いいかげんな教え方をされてしまって、あとでこまるからね。

効果的なフィルムの活用を

D　科学的研究も足りない。

B　いまいおうと思っていたところだ。（笑）

この面ではバドミントンも立ち遅れている。まとまった全体的な資料がない。そこで、熊本に日本で唯一といわれる、体質医学研究所があるので、そこの協力を得て、技術の分析から体力、トレーニングの問題まで、総合的な調査研究を推進したい。

関連してフィルムの活用。これからは一貫した指導方針にもとずく、技術やトレーニングのためのフィルムによるシリーズを作り、活用していく必要があるんだ。

E　そう、百聞は一見にしかず。口でいわれるより目で見る効果の方が大きい。

A　一度に大勢の指導ができるしね。

B　そこで少なくとも、初心者、入門の手引きあたりから着手したいと…。

F　お金と相談だね。（笑）

B　いや、そんなにかからないよ。この二つの予算だけは是非つけてほしいな。ほかの面でできるだけ節約するから。一例として、十一月の指導者講習会を、四月に持ってくるつもりなんだ。このとき一日早く、全国の指導委員を集め、年度の方針を決める。

これだと全日本学生、全日本



左側の列（奥から）川端，相場，上原，伊藤鉱各氏
右側の列（奥から）伊藤基，松本，小飼の各氏

メーカーとの意志疎通が先決

よい用具

A　よいプレーは、よい用具からということだが…。

D　それはそうだ。陸上やスケートで好記録が出るようになったのは、タータン・トラックとか人工パイピング・リンクができたからだし、棒高とびが5㍍を越したのも、グラスファイバーのポールが考案されたからだ。バドミントンでも意味は同じだ。

C　品質を向上させ、より安く、より多くのプレーヤーに供給するのは、メーカーと協会が協力してはじめてできる。

E　昨年はシャトルが少い、おまけに高い、という声が全国から続々と寄せられた。ところが、あれはシャトル原毛の輸入が少なく、いろいろむずかしい点が多いらしい。

G　いずれにしろ、協会とメーカーの相互理解、信頼、協力が、用具問題の前提。

F　ウェアをはじめとする用具の公認、推奨制などの問題は業界側と話が前進している。一応の結論が、もうすぐ出る。

B　業者側との懇談会などは**A**　昨年も何度かやった。かなり効果があったと思う。

C　工場見学も昨年一度やった。今年はもっとやるつもり。

F　業界のプレーヤー、愛好者に対する親切なPRも必要だね。

B　プレーヤーも最初から最高級品でなければプレーも練習もダメだ、という考え方を改めなければ。

D　しかし協会も、いい品はいい、悪いものは悪いと、はっきりしなければ。衛生とか健康管理の問題がからんでくるからね。

G　ウェアなんか、機能的で楽しいファッションのものを、どんどん考案してほしいよ。

B　組織がしっかりしなければ、どんな計画を立てても〝絵にかいたモチ〟にすぎない。問題は多すぎるほどあるのだが…。

G　ひとつは事務の敏速性、機能化。日本協会の事務局も、早いとはいえないが、各地方協会もスローペースが多い。

D　バドミントン界の編集担当者が、昨年秋、国体の地区予選の記録や代表選手のリストを送るよう頼んだら、期日までに届いたのは、三分の一もなかった。このため、何回も一々電話をかけ直し、これだけでも何万円にもなった、と嘆いていた。

B　協会の事務の下請けは、実際上、学連がやっている。学連がいなければこまることも事実で、アマチュア団体の宿命だ総合（十一月～十二月）の時宜も早められるし。

G　ありがとうございます。

C　底辺の問題だけどね。文部次官通達の緩和で、中学生が全国大会をやれるようになった。こっちの対策も考える必要がある。

A　それと家庭婦人、ママさんにも手をひろげる。

D　協会は具体的につかんでいないが、こうしたレクリェーション活動が、全国的にかなり拡がっているんじゃないか。

E　「バドミントン界」に逆に教えられることが多い。

G　最近、初心者だが、どこで教えてくれるか、などという問い合わせが、非常に多くなっている。

F　全国のスポーツ少年団の実体なども調べる必要がある。

まず〝同志〟の意識を

組織の充実と確立

が、なんでもやらせるのも、事務を混乱させるもとだ。

C　仕事をする人と、名前だけの人とに分かれるような状態になることも充分、警戒しなければね。

E　アマ団体は〝手弁当〟主義に徹しなければ。少しずつ時間とチエを持ち寄って協力し合うようにするのが先決だ。

F　実業団、学連、高体連、教職員などの各団体との連けいや協力…。

G　高体連とのパイプは、流行語でいうと〝断絶〟しているね。日本体協自体が高体連と意志疎通を欠き、対立状態になっているのだが…。

C　高体連が推す代表を、日本協会の担当理事にしてほしいという要望が以前からある。

D　協会役員と高体連専門委員長との話し合いをやるとか、インターハイの前などに、そういう機会をつくればいい。

E　実連も機構を充実し、組織が実際に活発に動くよう、努力しなければいけない。いまは大会をやるだけの連盟に終わっている。

A　学生関係は、インカレの出場者がべらぼうに多く、殺人的なスケジュールで消化しているし、競技会そのものも、のべつまくなしで〝過密ダイヤ〟の気味がある。

中央と地方の信頼

B　断絶といえば、地方と中央のつながりに、まだ有機的なものがない。過去に、なにか相互の信頼をさまたげるような問題があったのかもしれないが…

F　時代は急速に変わりつつあるのだから、もし、これまでなにかあったとしても、これからはお互い〝同じ目的のために同じカマのめしを分け合う、同志〟というつもりになって、やっていくようにしたい。

G　組織といえば、登録の問題がある。これは財政にも関係するが。

E　登録人口と実際の競技人口が、あまりにもかけ離れている。われわれ満一年にしかならない新米役員は、過去のいきさつをよく知らないから、口はばったいことはいえないが、なんとかしなければいけない。

C　最近は協会と新聞関係の方々との接触が多くなったが、時々、みなさんが「百万人の愛好者とか、三十万の競技人口とかいいながら、協会登録は、その一割にもならないのは、なぜか」と質問される。説明するのに骨が折れる。

D　よその競技団体のやり方なども研究したい。

「バドミントン界」の普及に全力

PRの対策……

F　PRの点について。

A　昨年はユ杯以来、新聞、雑誌、テレビなどにバドミントンののる機会が急速にふえた。

D　ところが、これらマスコミの人々の批判によると「バドミントンは、長い鎖国時代がとけて、ただ目をパチクリしている状態」。

C　たしかに昨年は、われわれ一同も「まずユ杯の成功に全力を」ということで、結果的には「これでほっとひと息」という安易な考え方が、なかったとはいえない。

G　バドミントンは、いま新人タレントみたいな立ち場にいる。急速にスポットをあびたが、



これからの演技力というか実力がともなわなければ、すぐに厳しい批判をあびて、ふくろだたきになることを覚悟しなければならない。

E　協会役員は、それでやめてもすむが、それでは競技の発展もないし、多くのプレーヤーに対し、申しわけない。

F　外へむかってのPRは、組織を充実させ、ユ杯、ト杯をはじめ、国際試合での実績を積むという、オーソドックスな方法で一歩一歩前進しなければいけないが、内部的な問題はどうだろう。

B　雑誌「バドミントン界」を全国の愛好者、競技者に滲させるのが、まず課題だ。

C　雑誌は出版局、協会にはそのほか広報委員会があるが、互いに知らぬ顔ではなく「バドミントン界」を通じて、登録会員の望んでいることを実現し、協会がやりたいこと、伝えたいことを滲透させていく、ということだね。

A　編集担当の話だと、府県や学校、クラブなど、各組織によって、その関心度や、申し込みにものすごい差がある。

読まねばソン

D　大げさにいえば、現執行部は、この雑誌に〝賭けて〟いる。全会員が、もれなく読むというようにもっていきたい。

G　ある競技団体では、登録者全員に〝半強制的〟に講読させているというが。

E　それまでしなくても、いまに読まねばソンする、というようにもっていきたい。

B　同感だ。

増収と節約の二面作戦が必要

財政の安定

A　いい話もいろいろ出たが最後に、いや、一番大事なのはお金だ。

C　サッカーやバレーボールなみとはいかずとも、いまの小さくて苦しいお台所を、なんとかして、ふやしていかなければならない。

D　アマチュア競技団体の収入源は、どこでも①登録料②公認、検定料③寄付金④体協など上部団体からの補助⑤入場料など事業収入で成り立っている。そのうち⑤の競技会収益があるところと、ないところでは、ものすごくちがってくる。

F　PRと、準備さえよければ、競技会収益は、かなり改善されるはずだ。

G　この点は、広く世間を見ているマスコミ関係の人たちの意見が一つの参考になる。

B　バドミントンは〝仲間うち〟でやっていればいい、観客は、本来いないんだ、あるいは呼んでも来ない、という考え方を、まず改めよう。

C　必要経費も、できるだけ節約することが大切だ。二度やる会議を一度ですませるよう、能率的に、密度濃くやるとか。

E　事務上のことにしても、きちんとやれば一度の手紙ですむものを、二度やるというようなことは改善する必要がある。

A　地方のことも考えたい。後進県は、競技者も少なく、財政も豊かでない、しかし、レベルを上げるため、無理しても指導者や講師を呼ぶとかで、ますます負担が大きくなる。このへんのことは考える必要がある。



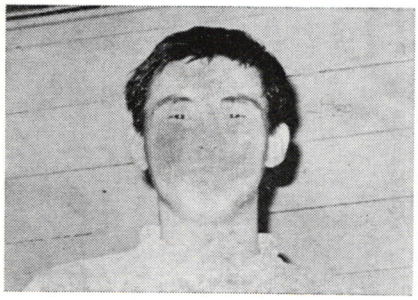
〝黄金の70年代〟がスタートした。ことしは昨年のユ杯初防衛で意気あがるムードをト杯へつなげる大切な年でもある。

バドミントン競技が国民のすべてに愛され、支持されて、メージャー・スポーツとなるため日本協会も着々、手を打っていくはずだが、なんといっても、一番、大事なのは選手、それも次代を背負う素材。

日本を名実ともに世界一にのし上げるホープはだれか。最も多く選手に接している学連から中田（日大）鈴木（明大）桐竹（早大）市川（日体）三原（日女）の各君に集まってもらい、探ってみた。（まとめ・秦浩）

70年代、期待の新人をさぐる

女子の充実、ユ杯へ固い足がかり



谷口選手（立大）

【男子】

「関東学生新人戦優勝の谷口（立大一年）について」

「この一年、最高の成長株だ」

「秋のリーグ戦で中大主将・樋谷、法大の我妻などを破り5戦4勝。新人戦でも国際学生代表を総ナメにしての優勝。全日本総合では鈴木（電々東京）をくだし、二回戦で小島に負けたものの、相当くいさがっていた」

「いまや立大のエース。名門が久しぶりに生んだスターだナ」

「良い点は真面目というところだろうね」

「頭もいい。バドミントンだけじゃないが、スポーツ選手は頭がよくなければ」

「スマッシュは、けっこう早いよ」

「身体が軽いのが難といえば」

「谷口についでは…」

「遠藤（日大一年）をあげる」

「全日本学生では、がんばっていたね」

「これといった決め手がないよ」

男子のトップは谷口（大立）

「根生がある」

「力不足じゃないか？」

「いや、見かけより強いよ」

「僕は大森（早大二年）を買う」

「身体はたしかにいい」

「精神的なモロさがあるのではないかナ」

「プレーでは、手のとどく所は確実にさばくが、とどかない所は簡単にあきらめる、淡白なところがある」

「次期早大の〝にない手〟の感じだが…」

「国際学生代表の鷲尾（中大二年）は？」

「あれ以降パッとしない。リーグ戦はよかったが…」

「よい先輩の多い中大だ、きっとのびてくるよ」

「その他では？」

「草島・田所（法大一年）」

「ダブルスは抜群だ」

「さすがは、ダブルスの法政」

「今年の特長かな、ダブルス型とシングルス型の二つが、はっきり区別できるような選手が多うだが」

「でも彼は出てくるね、必ず」

「昨年の高校チャンピオン二上（早大一年）は」

「いま、カベに突き当たっている。精神的にも技術的にも」

「自信を失なって、負けグセがついた感じ」

「是非、立ち直ってほしい」

「ワセダの責任だ」

「ワセダといえば今井（二年）もいい」

「米田・笠井（法大二年）も」

「笠井はシングルも使える。さっぱりして好感のもてる選手」

「米田は意外だった」

「同じ法大の滝野（二年）は」

「力はあるよ。法政ではシングルスで彼を一番買っているのではないか」

「ただ、身体に恵まれていないのが…。それだけに現在の健斗は立派だよ」

「青学の笠井（二年）は」

「二部ということで試合に恵まれない。上野（慶大一年）にも同じことがいえる」

高校勢に一線との落差

「高校生に目を移すと」

「全日本総合を見た限りでは昨年よりむしろ落ちた感じ」

「高校生は未知数だから」

「高校チャンピオン尾崎（富山商）は」

「抜群の力であれば、当然、国体でも北陸ブロックから代表になったと思うのだが…」

「**国体優勝の新潟勢**」

「素質的には良いものを持っているが、何かまだ頼りない」

「女子にくらべ男子はトップと高校の格差が大きい」

「でも体格のいい選手が多い。今後ののばし方では、充分、期待できると思う」

「天理の**岡田**は」

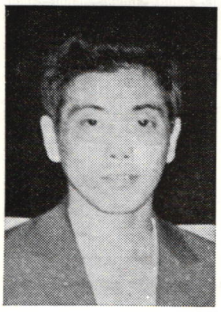
「まだ自分のペースをつかんでいない。高校生だから止むを得ないが」

「期待度のランクをつけてみようか」

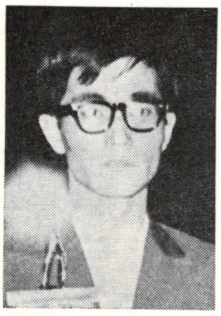
「シングルスでは①**谷口**②**笠井**③**滝野**④**今井**⑤**遠藤**」

「ダブルスは①**草鳥・田所**②**米田・笠井**」

「現在の力は米田組が上だが、今後の要素を入れると…」



堀川（日体）に大物の素質



【女子】

「相木・竹中はもう新人じゃない。省こう」

「関東新人戦優勝の**小片**（日体二年）」

「国際学生、リーグ戦、新人戦とまず順調な進み方だ」

「ウェスタン・グリップという変則なので、将来性を危ぶまれているとの話もあるが」

「いや、それを逆に生かせば。根性もあるし」

「本人がコンプレックスを持たぬことが大事だ」

「**堀川**（日体大一年）は」

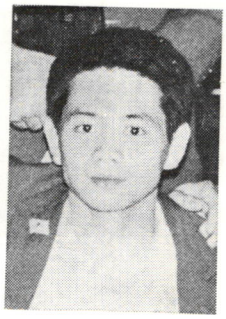
「全日本総合で高校生に負けたが、総体的に見て未知数の魅力、パワーというか秘められた力がある。一番期待できそう」

「将来性というと、一番かもしれない。いわゆる大物になりそうなタイプだ」

「虫も殺さぬ**高坂**（青学二年）さんは」

「練習相手に恵まれていない。その点、気の毒だが、真面目だし、精いっぱいやっている」

「プレーがまとまりすぎて、技術的に底が見えてきた感じもある。青学の支柱としての自覚が今後を左右しそうだ」



上から **滝野**（法大）**小片**、**堀川**（日体大）**の各選手**

「悲劇のヒロインという形容がぴったりするムードがある。つねにベスト4の中にははいるが優勝から見放されるという…」

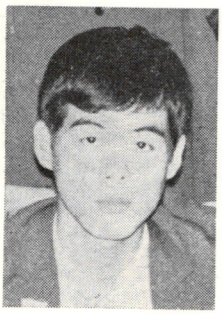
「**横田**（日女体一年）は」

「**保坂**との複がもう少し」

「**谷沢**（日女体二年）は一昨年の全日本総合で、これは、と期待したんだが」

「**山崎**、**宮武**の青学一年生は」

「将来の青学の荷い手だが、堀川、高坂のレベルには、まだ」



楽しめる東大阪勢

「高校陣はどうかナ」

上から **鷲尾**（中大）**米田**、**笠井**（法大）**の各選手**

「インターハイの団体、単複を二年連続制した**柴山**（東大阪）」

「高校の中では抜群。技術、気力、素質と三拍子そろって」

「逆に完成されすぎている感じがある。同僚の**高崎**の方が将来という見方もできる」

「それはいえる。だが柴山は高校の中では別格と考えた方が」

「二人とも東大阪短大へ進む」

「名コーチの佐藤先生がついているから、のびなやみということにはならんと思うが、地域がら、強敵の少ないのは気の毒」

「それさえ問題なければ、第二の相沢、竹中になるだろう」

「どっちにしても〝期待の星〟だ。順調にのびてほしい」

「**石崎**（真岡女高）は」

「いい根生だ。全日本総合でもがんばっていた。あの気力、好感が持てる」

「さすが〝トレーニングの鬼〟遠井先生の門下生だね」

「東大阪短大へ行く話がある」

「ほう。すると東大阪が近い将来、学生のタイトル独占なんてこともありうるかも…関東勢もぼやぼやしていられない」





「佐藤先生も70年の目標はインカレ優勝と、国際学生に一人でも多くの選手を送ることだといっていた」

「現段階では高校生が劣るのは当然だが、大学へ進めば、いまの学生のレベルを追い越す力を持っている」

「うん、男子ほど力の開きはない。それだけ女子の層は厚いといえそうだ」

「ユーバー杯の第二次防衛にもさらに期待が持てるな」

「ではランクをつけよう」

「女子は現在のランクづけと将来を加味したランクと二つできるね」

「前者では①**高坂**②**小片**③**柴山**④**高崎**⑤**石崎**、**堀川**…と続く」

「後者は①**堀川**②**石崎**③**高崎**④**柴山**⑤**高坂**」

「名前があがった人も、こちらの情報不足でもれた人も、とにかく、これを読んで発奮、なにくそ、の意気で70年代の栄光のために、がんばってほしいね」

「同感。健斗を祈ろう」

ユ杯に輝く朝日体育賞

66年についで2度目の栄冠

ユーバー杯日本代表チームが四十四年度の「朝日体育賞」に輝いた。

この賞は朝日新聞の制定。毎年一回スポーツ界にすぐれた足跡を残した団体や個人を選んで表彰するもので、四十四年度は柔道、卓球、重量あげ、レスリングの世界選手権などで優勝したり、好記録を出した選手も、とも受賞した。

バドミントンは三年前に、ユーバー杯で初の王座についたとき、栄冠を受けており、今度が二度目。朝日新聞は紙上で「バレーボールが世界一の王座をすべり落ちた女子競技のなかで、誇るべきはバドミントンと卓球の女子シングルスしかない」と、ユ杯チームが〝努力の王座防衛〟を果した意義を強調した。

晴れの受賞式は新春一月十四日午後四時から同新聞東京本社で行なわれた。チームを代表して今井監督、毛利コーチ、高木主将ら六選手のほか、日本協会から川端理事長など四役員が出席、輝く賞状、タテを受けた。

終わって懇談会があり、関係者一同は食事をともにしながら、今後ともスポーツの発展のためにがんばることを誓い合った。

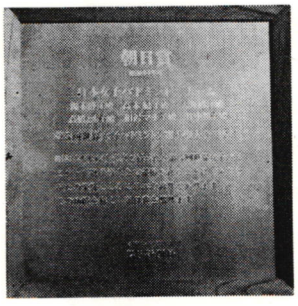


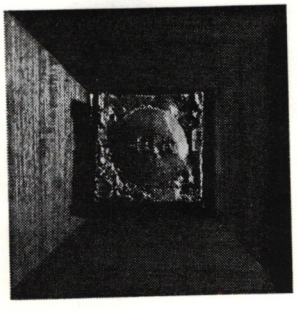
≫朝日新聞提供≪

〝日本スポーツ賞〟は逸す

朝日体育賞とならぶ『日本スポーツ賞』（読売新聞）の選考も年末の二十七日に行なわれたが、残念ながらバドミントンは受賞を逸した。

これは日本体育協会関係三十六競技団体から推薦された選手やチームを審議して選ぶもので最終的には団体から柔道とバドミントン、個人で重量あげ大内（警視庁）卓球の小和田（中京大）が残ったが、世界選手権で全階級を制し〝本家〟の面目をとり返した柔道の実績が買われてしまった。





【ユ杯代表チーム】▼監督 今井先（二階堂高教）▼コーチ 毛利清志（山陽学園教）▼主務 山本洋彦（北辰電機）▼選手 高木紀子（東海女短大教）天野博江（同）高橋とも子（北辰電機）湯木博江（日女体三年）後藤和子（新潟電話局）本間恵美子（日体大三年）浦口恵子（同）相沢マチ子（新潟青陵短大二年）竹中悦子（同）

今後もがんばる!!

高木選手の話 ほんとうに嬉しい。優勝の感激がふたたびよみがえったようです。これも今井先生はじめ全バドミントン関係者、スポーツ・ファンのおかげです。今後も力の続く限りは競技発展のため、三連勝のために努力するつもりです。

技術講座

百万人のバドミントン上達法

連載

中高校編 ⑤

柔軟性のトレーニング

遠井稔男

柔軟性は上達のポイント

柔軟性の大小はプレーの幅に関係し、ストロークの加速度や事故障害予防の立場から重要な条件である。

バドミントンの選手に於いても非常に柔軟性を必要とする。早い動きのゲームであるから、後方に追われた時、ネット前につめられた時、ボディに打たれた時などの攻守は、いずれも柔軟性がなければいいプレーはできない。

勿論、スピードに関係するばかりでなく、フライトやそのコントロールにも大きく影響することは云うまでもなかろう。バドミントン選手の柔軟性は、特に胸のそり、体の前後反度、横捻度などの大きいのがよく、脊柱の柔軟性が重要である。股関節の前後開側開や、肩関節の前後回旋、また、手首・足首・首・膝などの前後回旋など、筋肉や腱の伸展性と関節の可動範囲の広さとを強化することが大切である。

従来は各関節の部分的な強化が中心であったが、バドミントンに限らず、他のスポーツでも総合した全身的柔軟性のトレーニングも必要であり、両方ともに強化しなくてはならない。柔軟体操や柔軟運動も、軽い重量を持っての脱力運動も、今まで通り実施し、より一層柔軟性をつけてもらいたい。

トレーニングを実施する時は筋肉や腱の疲労していない状態で、準備運動を十分やった上で発汗状態のもとで行なう。又、計画的・継続的に実施することが必要である。

柔軟性のトレーニング（例）

	種目	部位	方法および回数
1	バット左右振・回旋	手首	出来るだけ速く大きく各々20回
2	鋏とび膝屈伸	股・膝	ジャンプして開脚おり膝屈伸20回
3	前後・左右・開脚	腿	立位から前後・左右各10回
4	倒立背負いおこし	胸・腰・手首	倒立した者の両足を1人が肩にかつぐ5回
5	上体後反	肩・胸・腰	うつぶせになり1人が腰の上にまたがり両肘を持って引き上げる10回
6	膝回旋	膝・足首	内・外回旋で各20回×2セット
7	2人組開脚体回旋	体側・腿	手首を持ち交互に引き合いながら上体回旋する各20回
8	背中合わせシーソー	胸・腰	おたがいに頭が床につくまで行なう10回
9	伏臥上体そらし	胸・腰	2人組んで各10回
10	横捻	体側	横にねて1人が足をおさえて上体を反対方向にねじりおこす

柔軟性の強化法

一、全身的運動

☒一人で行なうトレーニング

㈠立ったまま、全身を縮めたり伸ばしたりする、体のねじりも加えて行なう

㈡床の上に横になったまま、全身を縮めたり伸ばしたりする

㈢腕立て姿勢のまま、全身を縮めたり伸ばしたりする

㈣背中をつけた倒立姿勢で、全身を縮めたり伸ばしたりする

㈤高くとびあがり、空中でからだを縮めたり伸ばしたりする

㈥足を開いて立ち、バーベルを肩にのせ、両手で支えて上体を左右にねじる、また屈伸する

☒二人で行なうトレーニング

㈠背中合せになって腕を組み相手のからだをかつぎあう

㈡横に並んで坐り、手を組み合ったまま同時に腰を外側に出して引き合う

㈢一人はうつぶせ又は横向きになり、他の一人がその足を持って引きあげ、全身をそらす、また同様に腕を持って行なう

二、部分的運動

㈠首◇脱力して首を前後左右に振りおろす

◇頭に手を当て自分の力で首を前後左右にまわす、ねじる

㈡肩◇両手で棒を持ち頭上から背中にまわす

◇仰向き腕立て姿勢になり、腰を前に押しだして肩を伸ばす

◇手に物を持ちいろいろの方向に腕を伸ばしてひねる

◇うつぶせになり一人がその腕を持って引き上げ肩を伸ばす

◇足を前に出して坐り、一人が後から膝で背中をおさえ腕を持って後に引いてやり肩を伸ばす

◇二人向き合って相手の肩をおさえ、同時に上体を倒し肩を伸ばす

㈢手首◇手首から先をはやく振る

◇腕立てになり肩を前に出して手首をまげる

◇重い物を握り手首を振る、またはまわす

◇布を握り競争をするバネ握りをする

㈣足・首・膝◇開脚して交互に膝と足首を伸ばしまげる

◇台の端に瓜先で立ち踵を下げて足首膝をまげる

◇うつぶせになり一人がその両足先を持ち足首膝をまげながら、足首を伸ばす仰向けで同様に行なう

㈤股関節◇片足の膝をまげて広く前にふみだし腰をおとす

◇何かにつかまり片足を前後左右に振りあげる

◇足を開いて前は伸ばして坐り他の一人が手を握って引き起す

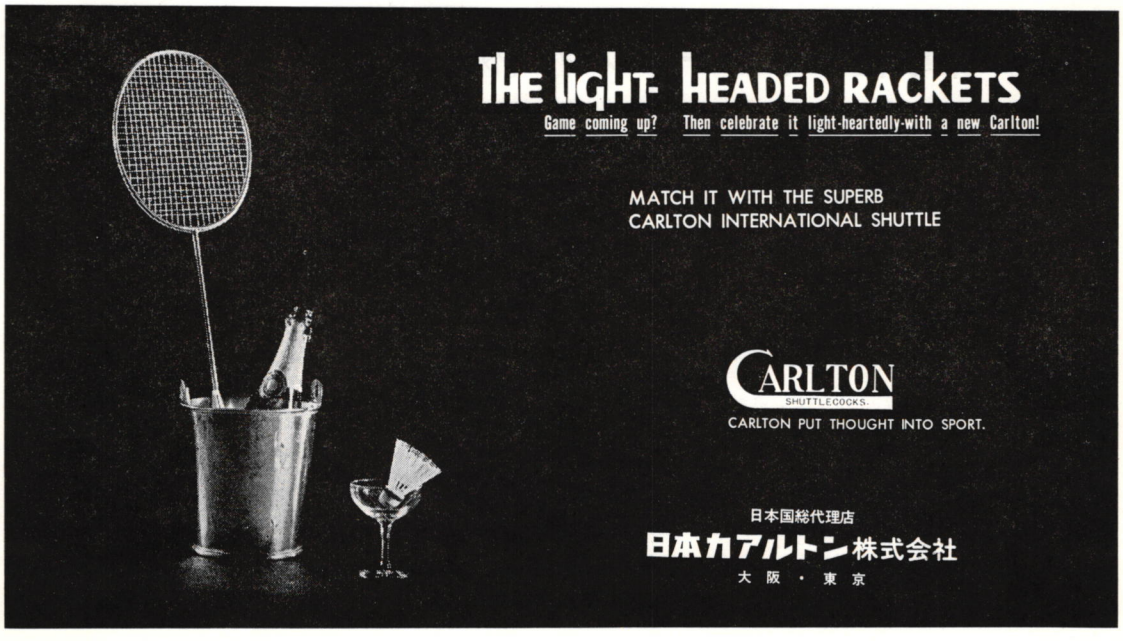
◇うつぶせになり他の一人が片足を持ってねじったり引きあげたりする

㈥胴体◇足を開いて二人向き合って坐り手と手を握って引き合う

◇足を開いて立ち上体を前後左右に振り又はねじる

◇足を前に開いて坐り上体を左右にねじる

◇仰向けになり両足を垂直にあげ同時に左右交互におろす、上体は反対方向にねじる





全日本選手権総合ハイライト

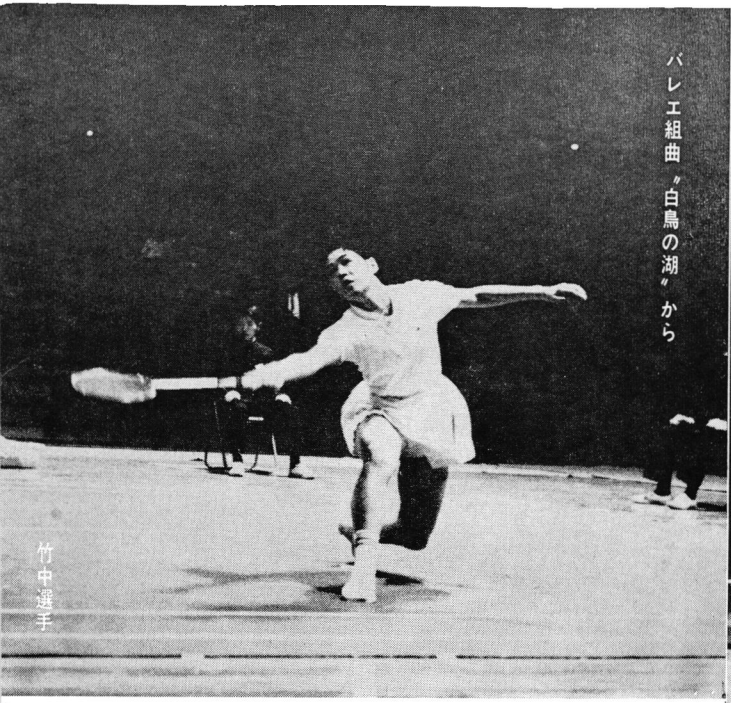
苦闘のあと

本誌創刊号「ユ杯特集」を手にした読者なら、おぼえておられるはずだ。地球儀をかたどったカップをしっかりと胸に抱き泣き笑いの表情を浮かべた、高本主将の写真を――

グラフをつくるため、写真えらびをしているとき、編集スタッフ一同が最初のページは「これだッ」と異口同音に叫んだのが、あの一枚だった。

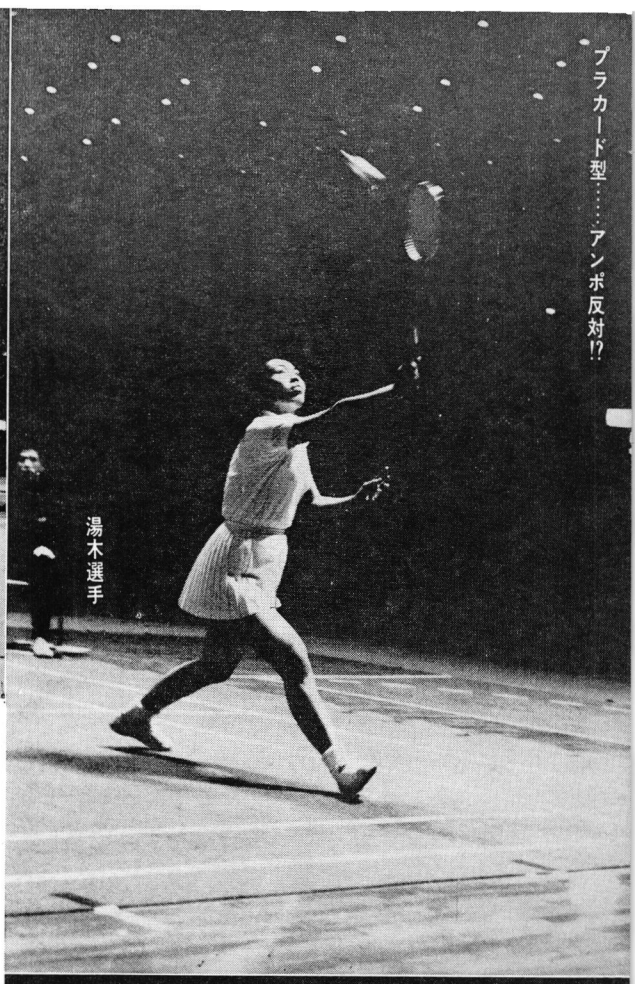
だが、ここにかかげる写真もそれに劣らず、すばらしい名作である。汗にまみれ、髪ふりみだし、苦闘のすえにかちとった栄冠。自己の信ずる道に、ただひたすら身をなげ出して悔いない人は、みな美しく、感動的である。決勝で吉杯をなめ、しょぼんとした竹中（後方）の姿も対照的に胸を熱くする。

湯木さん、おめでとう。



バレエ組曲〝白鳥の湖〟から

竹中選手



ブラカード型……アンポ反対!?

湯木選手

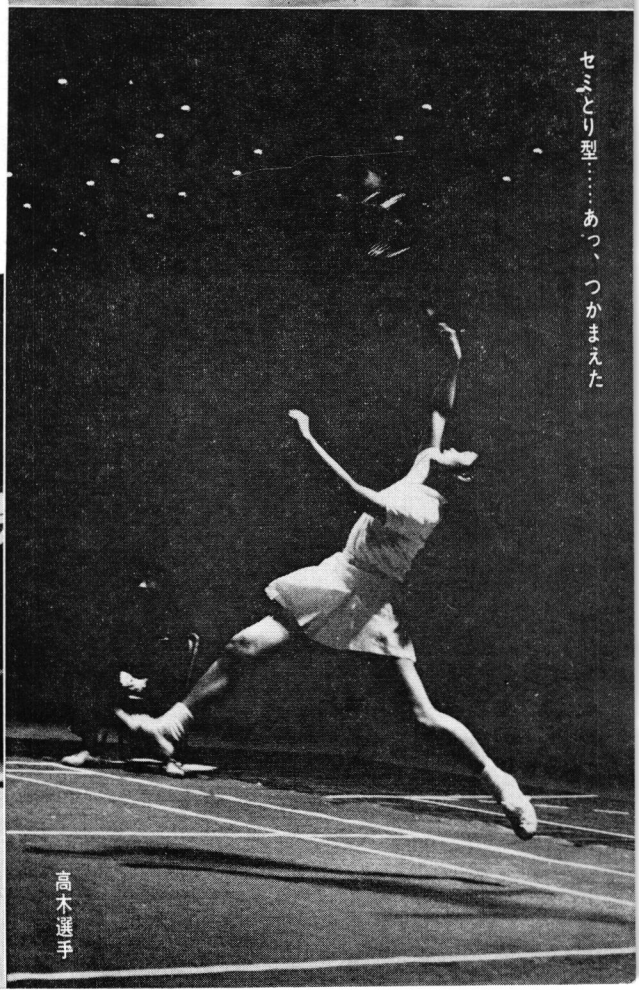
名場面

〈特集〉

あっとおどろく名場面——選手自身には、もちろんわからない。また、もしスタンドから何万の目が注目していたとしても決して捕えられない。だが、カメラという文明の利器は、ふしぎなことに、その〝見えないはず〟のものを、ハエとり紙のように、いともスイスイとキャッチしてくれる。

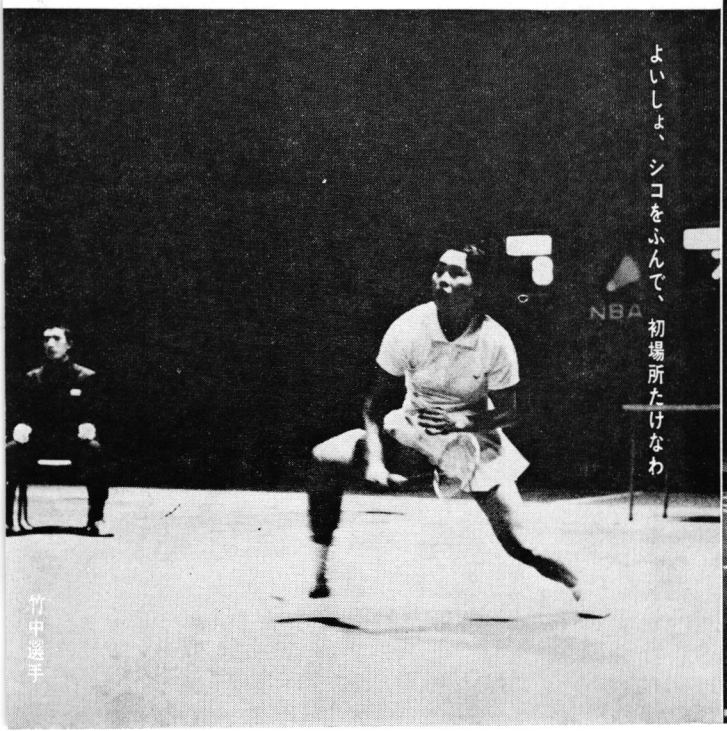
クレオパトラの鼻が、もう少し低かったら、と古人はいったが、この表現を借りれば、もしこの世にカメラがなかったら、「世界は変わっていたろう」というものだ。

とにかく、ごらんください。



セミとり型……あっ、つかまえた

高木選手



よいしょ、シコをふんで、初場所たけなわ

竹中選手

アッとおどろく

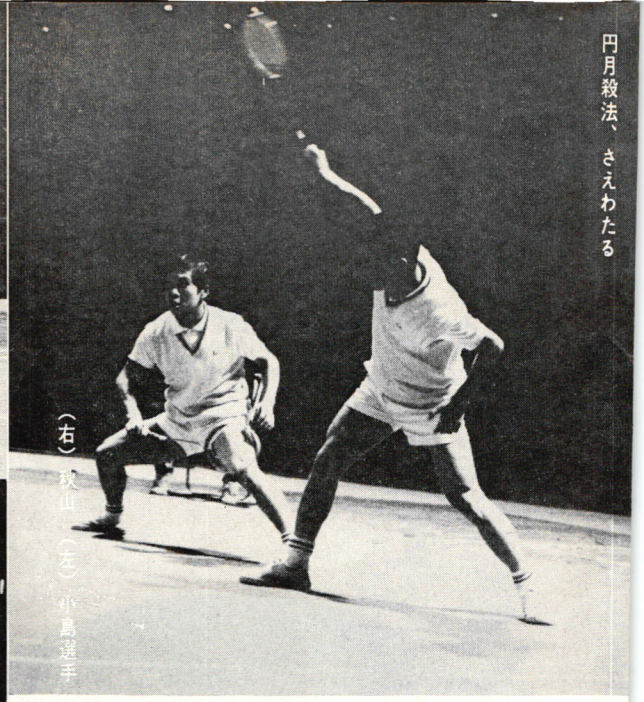
全日本総合選手権の決勝から抜き出したヒトコマ。

いずれも、タイトルへの必死の執念がにじみ出て、見つめていると、ジーンと胸が熱くなるとのうわさもチラホラ。

だが、ヘソまがりか、ヤブにらみか、ヘンなキャプション（説明）をつけると、同じ絵が、がらり変わって、ユーモラスに見えてくるのだから、ふしぎ。

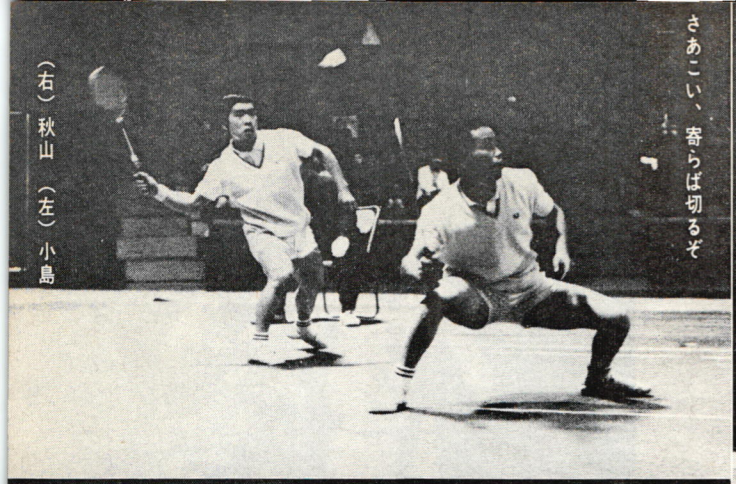
とにかく、ポーズを注文して何本フィルムを使おうと、意識的には絶対、演じられない〝決定的瞬間〟ばかり、。

選手諸君よ、お許しあれ。



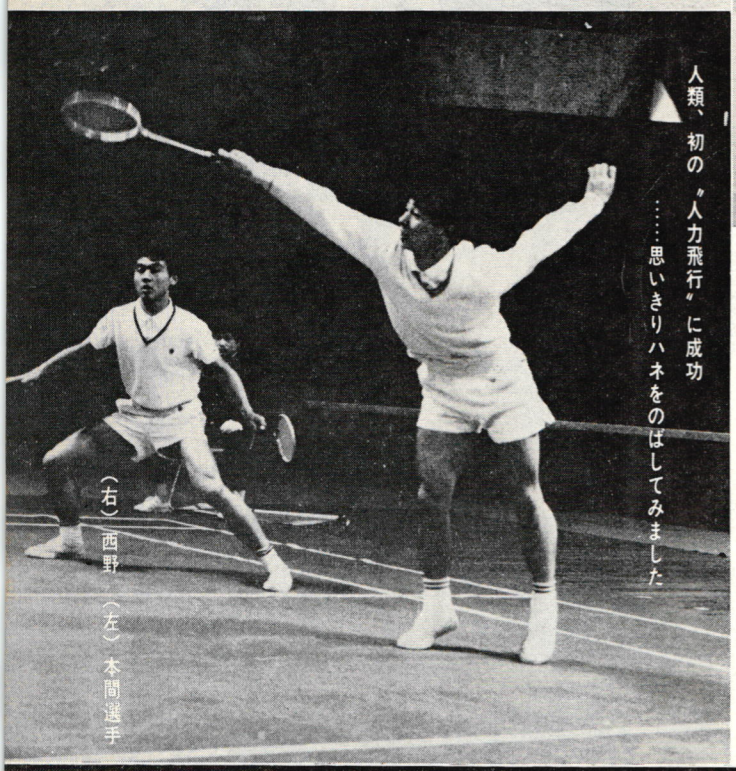
円月殺法、さえわたる

（右）秋山（左）小島選手



さあこい、寄らば切るぞ

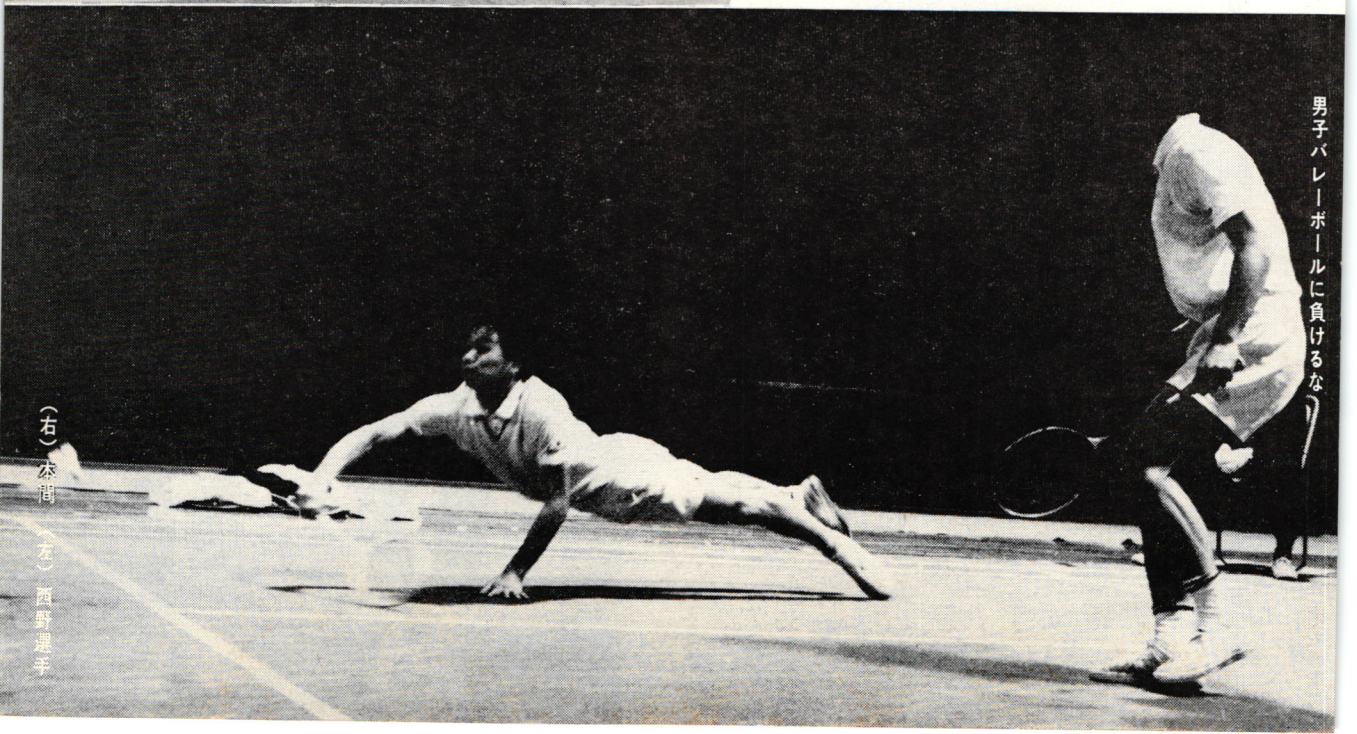
（右）秋山（左）小島



人類、初の〝人力飛行〟に成功

……思いきりハネをのばしてみました

（右）西野（左）本間選手



男子バレーボールに負けるな

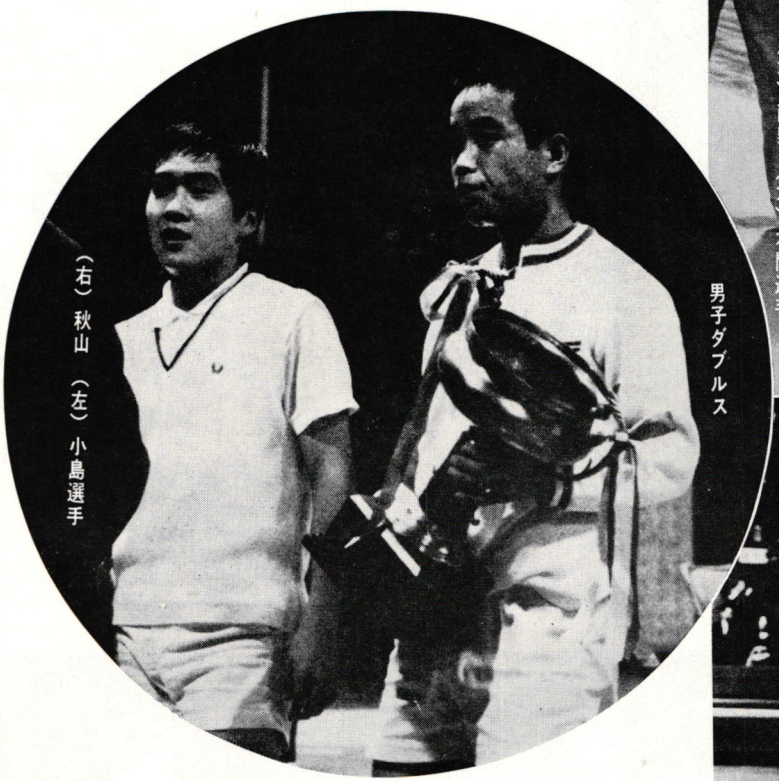
（右）本間（左）西野選手

喜びの表情 三態



混合ダブルス

（右）西野（左）本間選手



男子ダブルス

（右）秋山（左）小島選手

〈ダブルス優勝者〉



（右）竹中（左）相沢

女子ダブルス

幼少年編 ⑤ フット・ワークについて 伊藤基記

〝自然〟の中の遊びを生かそう

この号が皆さんの手に届く頃にはもう春が近づいているはずです。小中学生の皆さん、この前に私はラケットの握り方や、振り方がうまくなるためにはどんな心がけや遊びが大切であるかについて述べておきました。今日はコートの中の動き方（フット・ワーク）についてお話しをしておきましょう。

少しむずかしくなるかも知れませんが、まずコートの中をどんなにして動くのか、考えておきましょう。

バドミントンは「670㎡と610㎡（ダブルス）670㎡と518㎡（シングルス）の矩形の中をこまねずみのようにはいずり回るスポーツ」と表現した人もあるくらい動きの激しい競技です。バードは打たれた瞬間は、矢のようにとびだしますが、5、6㍍か10㍍もとべば、急に速度がおちて床にすいこまれるように落下します。

そうしてテニスのように、バウンドしてほぼ地面に平行に流れている球を待ちうけて打つのでなくて、空中に浮いている間のバードをつかまえることに約束されています。

ですからお互いに相手のコート上のどの部分でも攻撃することができるわけです。従ってそれに応ずるためにはコート中のどこにでもラケットがとどくように急いで歩いたり走ったり、場合によってはとびこむことにもなります。

しかも、そこにゆきついて待っておればバードの方でやってくるというものではなくて、むしろ逆に逆にと、前かと思えば後、右かと思えば左とお互いに打ち合いをする……そこにまたバドミントン独特の面白さが生れてくる理由もあるわけです。

従って、動くといっても、100㎡を突っ走るようにはゆかない。二、三歩踏みこんでは止まり、止ったトタンに後退、後退の動作の終りが次の前進につながらねばならぬというかっこうになってきます。

正月のハネつきに似ていて、大して動かないなどと思っていると、どうしてどうして、上手な人を相手にゲームをしてみると、ものの五分もたたないうちに、くたくたになって息があがり、応じきれなくなって、コートに坐りこんでしまうほどです。

バランスをくずさないで（バドミントンのフット・ワークはコート上のダンスだという人もあるくらい、姿勢のバランスは大切です）コートの上を動き回るためには、すぐれた平衡感覚と、強じんな足腰と丈夫な内臓を必要とすることになり、これをカバーするのには、マラソン選手の心臓と、バスケット選手の脚を一人の人間がもたねばなりません。

マラソンの心臓、バスケットの脚

前置きが大変ながくなりましたが、右のような理由から、私は次のような幼少年時代を送ったバドミントンの選手が生まれることを期待しています。

一、自然の山や野原を歩いたりかけ回ったりする
一、河原のごろごろした石の上を動き回る
一、階段をかけあがりかけ降りる
一、かくれんぼ、鬼ごっこ、陣取りをする
一、ドッヂボールなどいろいろの球技をする
一、バランス・ボールのようなぐらぐらする器具の上で遊ぶ

平たんな床やアスファルトの上では絶対に名選手のタマゴはかえらない、育たないと断言をしてはばかりません。

むずかしいことばですが〝自然の野性と、人間の都会的な文明〟とがうまく結合した頂点に、バドミントンというスポーツ技術がつくられている。そうして、このことがスポーツとしてのバドミントンのねうちを大変高いものにしていることを忘れてはなりません。

はじめから体育館の中で、ラケットを握って、ハネを打っておれば、それだけで名選手が生まれると思ったら、とんでもない間違いだ、ということをこの際、特に強調しておきましょう。

さあ、寒さにまけないで、お庭に運動場に、山に、河原にでて、自然の中でとび回って下さい。

特につかまえようと追う、つかまるまいと逃げる、走っては止り、止っては走る、急に曲って急にさがる、鬼ごっこ、陣取りは面白い。考えてみるとバドミンは、ハネを媒体として、ネットを間にはさんだ、陣取り、鬼ごっこということができるのです。

そこに面白いかけひきがあるからです。

■■■■■

筆者紹介　伊藤基記（五五）東京高師出、協会常務理事、同指導委員長、熊本女教授、第四回トマス杯日本チーム・コーチ

上級編

墓穴掘った高木の変化サービス

… 全日本総合選手権観戦記から …

④ 〈続〉 **サービスの重要性**

毛利清志

昭和44年度の実力日本一を決定する全日本総合選手権最終日の試合から、いくつかの感想を述べてみたい。

㈠ 女子単三位決定戦（高木×高橋）

高橋選手は得意とするロング・ハイ・サービスを実に有効に生かし、終始、高木選手を圧倒した。変化サービスは一発もなかったように記憶しているが、そのことが、サービスをますますコントロールのよいものにしオン・ラインではなかろうかと思わせるものも数多かった。

一方の高木選手はロング・ハイ・サービスがまことに不安定で（第4号の対ハッシュマン戦の記事参照）あった上「準決勝で死ぬ思いをした対湯木戦」（高木選手の話）の疲れが残っていたためか、フットワークが乱れほとんどのストロークに大変な無理を重ねたため、得点に結びつかない。

ファイナルのゲームでリードされると、人間だれしも焦るものだが、高木の場合、そのアセリはサービスに現われた。

すなわち、ロング・ハイ・サービスをやったかと思えば、シヨート・ロー・サービス、あるいはまた、ドリブン・サービスと、実にめまぐるしく変化に変化を重ねていった…。

筆者も高木選手が、あれほど変化サービスを使用したのを見たことはなかったのであるが、そのことが、ますます、高木選手の不調に輪をかけたのである。

この試合には最初からハンデキャップがあった。練習不足とはいえ、この日、好調の高橋選手に対し、高木選手はひどい不調であった。

だから、好調な高橋選手に対して、ロング・ハイ・サービスやクリヤーが、コートいっぱいに飛んでもいないのに、サービスに変化をつけたこと、しかもその変化サービスにつながる作戦が乏しかったことは、高橋選手に、ますます自信をつけさせる逆効果を生んだ。

酷ないいかたをすれば、高木選手はサービスを変化させたことによって、みずからの墓穴を掘ってしまった、ともいえる。

心すべきことにこそ!!

㈡ 女子単決勝（湯木×竹中）

スタート時における竹中選手のロング・ハイ・サービスが、実にきれいに、コートいっぱいにはいった。

アップ不足の湯木選手は、しばらくの間、これをもて余したかたち。ドロップもスマッシュもネットし、たまにクリヤーを打てばアウトになる、という状態で一発のミスが続き、6—0と大きく点差が開いた。

タマがラケットに乗らないうちに手首を返し、腕を振るといった、全く湯木選手らしくない自滅が、いくらか立ち直りかけたときには、10—4と竹中選手がゲーム・ポイントを握ってしまっていた。

ところが、サーブ権が湯木選手に移り、彼女独特のロング・ハイ・サービスが、やや安定してきた上、汗をかいて調子が上ってきてラリーが続き出した、と思ったとたんに、こんどは竹中選手が凡ミスを始めたのである。

ダブルス決勝で不調な相沢選手をよくリードし、2連勝に輝いたものの、午前中にダブルスの3決を終わっていた湯木選手にくらべると、体力的にもハンデキャップがあったためか、ついに10—10とセッティングに追いこまれたすえ、第一ゲームを失なってしまった。

湯木選手が連続8点をとる間竹中選手が1点もとれなかったということは、同選手の調子のくずれを如実に物語っている。

第二ゲームも同じような状態でワン・サイドとなり、11—4で湯木選手が初優勝に輝いた。大学選手権に続いての決勝での顔合わせにしては、まことにさびしい内容の試合であった。

湯木は高木、竹中は高橋に勝っての決勝進出であり、日本女子の将来に明るい見通しを立ててはくれたが、反面、だからこそ二人は、これからの中心。そのことをじゅうぶん自覚し、期待にこたえ得るような、内容充実した試合ができるよう、心技両面のトレーニングに励んでもらいたいものである。

かりにも大先輩たちに勝てたのだから、これでひと安心とか、ダブルスで2連勝を果たしたのだからという、国内だけのチッポケな喜びにひたる、甘い考えがあってはならない。

第六回ユ杯戦は昨年六月十四日の夜、当時の高木キャプテンの手にカップが授与された瞬間から開始されているのだ!!

問題は、どんな悪条件下の試合においても、常に自己の力量を最高に発揮できるようになってもらいたいわけであり、そのためには心身両面のコンディショニングが自分自身で出来なければならない。

もちろん、相当な時間をかけて体験も積まねばならないが、その前提条件として「自分に勝てる人間」になってもらいたいものだ。（この項続く）

【お断わり】 この記事のため話題を提供してくださった各位に厚くお礼申し上げます。



読切連載
【第5回】

シャトルに対する執念
〝この一本〟を大切にせよ

立大OB
日本協会常務理事
佐藤芳朗

シャトルに対する執念――僕はまず、現在の選手諸君に、心からアドバイスしたい。

シャトルの一打一打にもっと執念を持て――と。それは、自分の一本に対する執念であり、いったんコートにはいった以上はあらゆる妥協を排除せよということである。

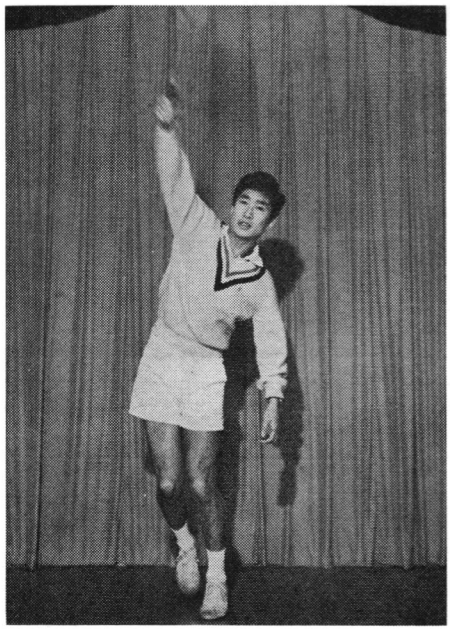
かって僕は高校、大学とバドミントンを続け、卒業後もしばらくの間、競技生活を送った。

その生活のなかから僕が学んだのは、この〝執念〟だった。

関東学院高校の時代、僕の友人に青木君という人がいた。

僕はとりわけどの競技、どのスポーツと限定はせず、主として遊びでピンポンなどをやっていたが、ある日、青木君がラケットでシャトルを打つバドミントンを僕に教えてくれた。

神奈川体育館で僕たちはよくシャトルを打って遊んだが、あくまで遊戯であった。その隣りにスケート場があり、スケートの面白さを、僕は青木君に教えたが、僕にバドミントンを教えた青木君が、その後大学に進んで、アイスホッケーの名主将となり、僕がバドミントン選手になったのも奇しき因縁といえようか。



当時、関東学院は全国で一番強いチームといわれ、僕は高校三年になって同チームの一員となった。その年、早くもインター・ハイに出場させられたが、当時、神奈川県の六浦にあった神奈川中学に、われわれは間借りしていた。現在、協会の総務委員長である菊地さん（早大OB）も、学校こそ違え、同じところで練習していたものだ。

立大に進んで、すぐレギュラーとなってからの戦績については、自分で語るのは面映ゆいので遠慮したい。

しかし僕の現役時代における選手生活はきわめて順調であり、いい先輩、いい同僚、いい仲間が多勢いた。いわく片石、望月（立大OB）にあり吉原（慶応）だった。また高校の後輩にはさきごろこの欄に登場した越川啓君（慶大）もいた。越川君とはトマス杯でもペアを組んでいる。

ただ大学三年の時、香港でのトマス杯に、また卒業してから川端理事長が当時、監督となって、一緒にセイロンに遠征したが、その後はタイとの試合に、外貨の事情で出られなくなり、涙をのんだいきさつもある。

その点からいえば、今の選手諸君は非常に恵まれた環境にあるということができるだろう。

海外遠征にしろ合宿にしろ、またコーチの問題ひとつとりあげてみても、われわれの時代とは雲泥の差がある。

それを話すとき、人々は、なんだつまらない、また昔のことか――と笑うかも知れぬ。しかし、冒頭に述べたように、これが僕の心の底からの願いであることを理解してほしい。

僕たちの時代は日本バドミントン協会がまだ成長期にあったころである。

それだけに決してわがままは許されなかった。いまの選手諸君が、わがままばかりいっているというのでは決してない。

しかしシャトルひとつを追う執念に欠ける点は、やはり、こうした環境のせいではあるまいか。

コートにはいってサーブから始まる時、顧わくば〝一本〟というものを大切にしてほしい。

いま日本のバドミントンは、大きな飛躍の時期を迎えようとしている。

ユーバー杯、そしてトマス杯〝世界に伸びる〟日本のバドミントンである。

僕たちはその礎石の時代を生きた。辛く苦しく悲しい時期でもあったが、僕の場合どうであったかと、いま語るべきではない。従って僕としては、いまの選手諸君に対する一先輩の助言として〝タマに対する執念を持つこと〟を強調しておくにとどめたい。



各紙に見る10大ニュースとバドミントン

ユーバー杯の二連勝を評価
読売、朝日で七位、東京十位に

朝日、読売でもとに7位、東京新聞で10位――これは年末（44年）のしめくくりとして、各新聞が行なう恒例の「スポーツ界10大ニュース」のなかに、バドミントンが〝ユーバー杯二連勝〟でランクされた〝地位〟である。

朝日新聞は〝ゆっくり話そう・この一年〟記者座談会で国内10大ニュースをとりあげ、七位に「世界選手権で日本勢大活躍」として「柔道、レスリング、卓球、重量あげ、女子バドミントン」をひとまとめに取り上げた。その座談会の一節――

F　記録面で光ったのが、重量あげ、三宅兄のトータル四百㌔の世界新。一時は弟に追いこまれ、引退を決意したのだが、よくカムバックした。

D　ミュンヘン五輪では、また兄弟で表彰台にのぼる公算が強くなってきた。それから世界選手権では柔道、レスリング、卓球が活躍したし……。

B　あれは、もはや勝って当り前みたいになっているから、ベスト10にははいらないよ。

C　**いや、やっぱり〝世界一〟になるのは、なみ大低ではない。地味だが、女子バドミントンのユーバー杯（世界選手権）防衛もえらい。**

東京新聞の10大ニュース国内編はプロ野球関係を除いた、特殊なもの。バドミントンについての解説の項目を抜き書きすると

……女子バドミントンは湯木博江（日女体大）が全英大会で優勝、東京で開かれたユーバー杯（世界選手権）ではインドネシアの挑戦をしりぞけて女王の座を守るなど、わが世の春をうたい……

と、ランクは10位ながら、その躍進ぶりを高く評価されている。

また、毎日新聞では10大ニュースという形式をやめ、代わりにスポーツ界年間のおもな出来ごとを日記風につづった。その六月の項目でバドミントンは

【6月】▼実力　女子バドミントンで日本、インドネシアの挑戦を退け、ユーバー杯防衛

と述べ〝実力〟という小見出しの文字が、さん然と光る。

いま、日本国内で組織団体を持って行なわれているスポーツは五十種類近く。アマ・スポーツ競技の総括

SPORTS・SALON

■ 読売新聞 ■

①プロ野球で八百長事件発覚
②巨人が5年連続日本一の座に
③高校野球で太田ブーム起こる
④学校体育から社会体育へ
⑤柔道の世界タイトル奪回
⑥金田が400勝して引退
⑦ユーバー杯バドミントンで2連勝
⑧大内が重量あげ重量級に初優勝
⑨沢松妹がジュニア庭球世界一
⑩女性を含む日本隊アイガー北壁直登

■ 朝日新聞 ■

①高校野球，松山商×三沢の決勝戦
②永易事件
③日本体協，アマ規定廃止表明
④社会体育と文部次官通達
⑤アイガー北壁の直登
⑥三宅兄，重量あげフェザー級に史上初の400キロ
⑦世界選手権で日本勢大活躍（柔道，レスリング，卓球，重量あげ，女子バドミントン）
⑧柏鵬時代ついに幕
⑨ギャンブル・ブームと美濃部発言
⑩巨人5連勝と金田400勝で引退

■ 東京新聞 ■

①日本体育協会，人事，規約問題で大ゆれ
②世界柔道選手権で初の全階級制覇
③プロボクシング小林，四度世界タイトル防衛の日本タイ
④文部次官通達の大幅緩和
⑤重量あげの三宅兄，フェザー級で400キロの世界新
⑥大相撲で写真判定を採用
⑦アイガー北壁の直登に成功
⑧夏の甲子園大会，松山商×三沢の熱戦
⑨一億円馬2頭生まれる
⑩バドミントン・ユーバー杯で王座守る

■ 日刊スポーツ ■

①永易，八百長問題で球界追放
②高校野球で松山商・三沢熱戦
③巨人金田が400勝して引退
④アイガー北壁直登に成功
⑤巨人，日本選手権に5連覇
⑥ギャンブル廃止の美濃部発言
⑦サッカー・リーグ三菱重工優勝
⑧世界柔道で日本全種目優勝
⑨小林，4度目の世界防衛
⑩鈴木恵，世界スピード3連勝

■ スポーツニッポン ■

①西鉄，永易投手の八百長事件
②美濃部都知事ギャンブル廃止表明
③小林，世界J・ライト級王座4度防衛
④金田，400勝達成して引退
⑤三沢高・太田投手の人気ふっとう
⑥三宅兄，夢の400キロ達成
⑦鈴木恵，世界スピード3連勝
⑧"プロ野球の父"・正力松太郎氏死去
⑨大鵬，一代年寄を認められる
⑩巨人，日本シリーズ初の5連覇

SPORTS・SALON

団体である日本体育協会の加盟競技団体だけでも三十六もある。これにプロ野球、大相撲はじめ、各種プロ・スポーツ、ギャンブルまで加えた〝スポーツ天国〟の日本で、激しい競争をくぐり抜け、10大ニュースの一角にくい込むのは、実に大変なことだ。

事実、アマ・スポーツの中で人気絶頂の〝ご三家〟といわれるサッカー、バレーボール、体操の文字が、朝日、読売、東京の三紙に全然、見えないことを考えても、バドミントンの評価の高さがわかる。

運動部長はソッポ?!

だが、バドミントンも、手ばなしで喜んでばかりはおれない。日刊スポーツ、スポーツニッポンの両紙では、バドミントンがランクされなかったからだ。

日刊スポーツは、在京十社の新聞、放送の運動部長に選定を依頼したものだが、このうち、だれ一人として、バドミントンをあげなかった。この結果の持つ意味は、きわめて重大である。

つまり、バドミントン競技の存在、その活躍ぶりは、運動部長というおえら方の脳裡には、まだ刻みこまれていないということだからだ。

さきにあげた三紙で、かすりもしなかったサッカーは、逆に「三菱の日本リーグ初優勝」が票を集め、半数の五人が推している。これはバドミントンの場合でいうと、高木に代わって湯木がチャンピオンになったというていどの、いわば〝政権交代〟にすぎないニュースだ。

しかも国際的にいうと、サッカーは昨年、ワールド・カップ（世界選手権）アジア予選に負け、実力はまだ二流。だが、結果としてベスト10の7位にサッカーの名が出るのは、この競技がいかに全国的に支持され（つまりマスコミに支持され）人気を持っているか、ということの証明でもある。バドミントン関係者は、今後、こうした事実をよく考え、競技の普及発展、レベル向上のための施策を練ってほしいものだ。

最後に「アッと驚くアマ・スポーツ界」のタイトルでバドミントンをとりあげた**デイリー・スポーツ（勝木記者）**の年末しめくくりの読みものを要約して紹介しよう。

これはバドミントンが「実力は最高ながら、人気は最低」として、全日本総合のときの観客の不入りを鋭く突き、しかし報道機関との協力を高く評価「今後は〝すごい人気〟という点で驚かせてほしい」と好意的に結んでいる。

「…数ある種目の中で〝世界〟に君臨する女子競技は体協加盟団体中バドミントンただ一つ…ちなみに男子のランクは現在三位…ところが国内の人気はいたって低調…世界一？実力者が顔をそろえる大会でも空席ばかりというのでは、やっている方も張り合いがなかろう…。

…それでも川端理事長になってから積極的にイメージアップを図っている…なにより試合をテレビ電波に乗せ、ゲームの結果をより大きく報道してもらおうと報道機関の積極的利用策を打ち出してきたのがいい……70年にはどう飛躍するか。一つ〝強くても人気がない〟という意外性でなく〝すごい人気〟という点で驚かせてほしい。

スポーツサロン

スポーツと心理学……〈中〉

アガって口惜しい花いちもんめ

白ハチマキをきりりとしめ、さか立ちをくり返したり、とんぼがえりをしたり――女子八十㍍ハードル、レース前の依田郁子選手。東京五輪の陸上競技を見た（テレビ、映画もふくめて）人たちは、あのシーンをおぼえているだろう。

レース前の逆立ちは、単なるウォーミング・アップではなかった。アガりかけている自分を、必死になってしずめようとする努力のひとコマだった。

そういえば、テレビや映画の大写しは、百㍍を9秒9で走る〝黒いイナズマ〟ヘイズ（米）でさえも、スタート・ラインにならんだときは、不安でいっぱいになり、からだのふるえがとまらぬシーンを、たくみにとらえていた。

アガる――というのは、多かれ少なかれ、だれにもあることだ。

テニスで最高のデ杯（バドミントンのト杯に当たる）試合に、初めて出場した選手は、例外なしに〝本番前〟の練習で、ラケットがボールにまともに当たらない。

私はこの現象を十数年見ているが初出場の選手たちは、ハンで押したように「満員のスタンドが、ぼーっとかすんで、どこにだれがいるか判別できず、そのざわめきは、潮騒のように、耳のなかで、ごうごう鳴るだけ」という。

各競技で、トップ・クラスの名手でさえ、大事な場面でうろたえるのだから、凡人がアガるのは、むしろ当り前かもしれない。

びっくりした状態のことを〝腰を抜かす〟などと表現する。この〝アッとおどろく〟とは、別の言葉でいうと〝過度の刺激で異常な緊張、興奮状態に陥り、正常な（あるいは、ふだんの）行動がとれなくなる〟ことである。

アガるというのも、これと似た状態である。結果的に大脳が支配している神経支配が混線するため、自分で自分を統制することができなくなる現象のことで、つまりは、試合に一番大切な〝精神の集中と安定〟が不可能になる。

では、アガらないためには、どうしたらいいか。その答えを出すためには、どんな人がアガりやすいかを調べなければいけない。

これは、常識的に、当然、考えられることだが、松田岩男・東教大助教授の研究によると、アガりやすいのは

①神経質な人②刺激に過敏で、主観的傾向の強い人③恥ずかしがりや内気、ひっこみじあんな人――などである。

これはまた、競技種目の特性によっても、いろいろちがう。

一般には個人種目の選手はアガりやすく、チーム・ゲームの選手はアガりにくい。

バレー、バスケット、サッカーなどのチーム・ゲームの選手が、あまりアガらないのは〝仲間がいる安心感〟があるからだ。かりに、一人が多少アガっても、他の選手がカバーしてくれるし、自分のチームが優勢になれば、アガった心理から脱け出せるからだ。

このため、これを逆手にとって、チーム・プレーを破壊しようと、特定の選手にだけボールを集中したりマークしたりして、自信を失なわせる戦術がとられることになる。

プレーの時間の長さも、アガりに関係する。同じ個人競技の陸上でも短距離や、跳躍の選手はアガりやすく、幅とびや三段とびでは、六回の試技全部をファールするような選手も出てくる。

さて、アガりの対策はなにか。一つは根本的な自分の性格の改造、もう一つは、当面の対策として自分を安心させ、自信を持たせることを考えること、である。

根本的な問題は時間がかかるからさておき、当面の対策は？

人間は自分の経験しないこと、未知のものに弱い。不安がある。夜がこわいのは、ものが見えず、自分の周囲が〝不確か〟だからだ。スポーツの場で、この〝不確か〟な要素は大別して①相手の実力、戦術②試合場の設備、雰囲気など環境、の二つになる。このほかチーム（県、国）を代表して「負けられぬという切迫した気持ち」試合経験（場数をふんでいるか）なども要素として出てくるが、二項目に関する限り、事前に出来るだけ調べ、情報を集めることである。

弱いはずだが、知らない相手と対したとき、高木紀子選手は「試合前の打ち合いの練習で、意図的にいろんなストロークを出してみて、アナをさがす」という。また、重量あげの三宅（兄）は、事前に試技台にのぼって、天井のフシ穴とか、観客席の一点とか、その日、視線を当てる場所を、必ず決めておくそうだ。

（東京新聞・後藤忠弘）

□□□□□□
提言シリーズ
□□□□□□
第1回

…高木、相沢の欠場に思う…

健康管理
選手としての自覚の問題

◇◇◇チャンピオンズ・トーナメント◇◇◇

ふだんどんなに頑健を誇る肉体の持主であっても〝病気〟にかかることはあり得るし、それが、いつ、どんな具合で出てくるかわからない。わかっていれば、前もって予防することもできるし、注意することは可能である。

もっとも注意に注意を重ね、用意おおさ怠たらなかったところで、それを押しのけてやってくる〝病気〟もある。〝病気〟というものは元来、そうした性格を持つものなのだ。

従ってある意味では不可抗力ということもできるだろう。しかし果して〝病気〟は不可抗力であろうか？

ふだん病弱である人や、なんらかの疾病または持病の人、もしくは老令者や乳幼児ならともかく、ふつうの五体健全な人間なら、「カゼが流行している」と聞けば注意するのは当然であり、自分から進んで「カゼをひきに」出かけるバカもいないはずである。

カゼに限らず腹痛にしろ同じことで、飲みすぎ、食べすぎも同様である。

ところで私がなぜこんなことを書くのか？　読者諸賢は疑問を抱かれるに違いない。

結論からいえば、世の父親や母親と同じく、「体には十分気をつけてほしい」という、至って単純にして明快な〝注文〟なのである。

一月四日のことである。東京・渋谷の岸記念体育館で行なわれた第一回女子チャンピオンズ・トーナメントに、ベテランの高木紀子と相沢まち子の二選手が「カゼ」のために欠場し、参加者はわずか六選手という寂しい大会になってしまった。

満席になっても四百そこそこの会場に、PR不足にもかかわらず三百五十人もの観客が入り「バドミントン熱」はいぜんうわ向きであるという、うれしい現象に出くわしたわけだが、正直にいって二選手の欠場がファンの期待を裏切ったことは疑うべくもない事実である。とりわけ全日本に不調だった高木だが、まだまだ日本の第一人者であり、かくいう私も高木ファンの一人であるだけにポッカリとアナのあいた気分を味わされたのも確かである。

聞くところによると高木は「四十度の高熱で、ノドを腫らし、とても試合に出られる状態ではなかった」といわれるし、相沢もまた「カゼ」であったということである。

これについて東京新聞の後藤記者は「体が大切だ。無理してよけいにこじらせては……」と温かい思いやりを示したし、森友副会長は「本人（高木）ははどんなに苦しい思いをしているのでしょう。恐らく痛いほど悲しくつらい思いに違いない」と彼女の身の上に思いをはせ、学連の人たちは「高木先生だからよほど悪いに違いないですね」と表情を暗くした。

しかし、私はあえて提言したいのである。

一流の選手であればあるほど、プレーヤーとしての身体の調整を考えるべきであり、試合日程に合わせて自分の体の健康管理に注意すべきなのではあるまいか。

相沢にしろ高木にしろそれくらいのことはできる選手であり、幼児のように母親が健康管理をするような必要はまったくないはずなのだ。

相沢や高木にとって、私の提言は耳が痛いに違いない。だが、それは、プレーヤーとしての心構えの問題であることを、私は力説したいのである。

高木は、日本女子バドミントン界のアイドルであり、四日の試合には「高木のプレーを見るために」やってきたファンが大勢いた。

病気は病気であり、それをおしてまで出場せよ！とは私はいわない。

それ以前の問題であることを私はここで重ねて強調しておきたい。

相沢、高木に限らず、プレーヤーとしての心構えがしっかりしてさえいれば、今度のようなことは起こらなかったはずだといえば、それは、相沢や高木たちにとって酷であろうか。

高木のプレーを惜しむゆえにこそ私があえて苦言を呈したことは御賢察願いたいのである。

（日刊スポーツ・盛川宏）

驚異的なPTAの活動

〝バドの町〟舞鶴　百人に一人が選手

京都府の北部に位置し、三方を山に囲まれ、一方が日本海に面した町。終戦直後は〝引揚げ船〟の発着で有名となった舞鶴はいまや〝バドミントンの町〟として聞こえている。

当市に競技が普及してから七年。人口十万余、競技人口約千人、つまり百人に一人はラケットを握っているわけで、バドミントンの人口密度としては日本一、いや、世界一ではないだろうか。

毎日、かならずどこかでシャトルコックの飛びかうのが見られ、市内の小中学校の体育館には、他の競技のラインは見られなくとも、バドミントンのラインだけは引いてある、というほどである。

一番の特色は、PTA選手が多数を占めていること。まさにいま流行のことば〝社会体育〟はバドミントンからで、先日も例年のごとく、市内小中学校育友会の球技大会が開催され、バドミントンも各校から約二十チーム、三百人の選手が参加した。

また、学年対抗といって、各学年ごとに分かれ、試合を行なっている。小学校PTAも五、六あり、これを見ても、いかにバドミントンが盛んで、大ぜいの人が楽しんでいるかが知れよう。

この中から育った名選手も少なくない。去る四十二年六月、福井県勝山市で開催された全日本実業団選手権の四十歳代ダブルス二位に入賞した久代、谷口（現在、舞鶴商事勤務）等がおり、壮年は他府県も全然、問題にしないほどである。

もちろん、PTA以外の選手も相当数、活躍しており、四都市（福知山、綾部、宮津）体育大会が開催されて約十年、当市は依然、無敗を誇っている。

組織の方もしっかりした基盤があり、協会が発足して十年、協会登録員約三百人を数える。

行事にも各種大会のほか講習会が多く、昨年はト杯代表の堺栄一選手（河崎ラケット）を講師として招いた。

今後、わが舞鶴は日本全国に知られるバドミントンの町めざし、より一層の底辺拡大、技術の向上に努力、健庫な市民づくりと、バドミントンの発展に寄与していかなければと思っています。（舞鶴市協会常任理事、国立舞鶴病院バドミトン部・池部勝美）



トップはバドミントン

五割の増　スポーツ用品の売れ行き

スポーツを見るだけではつまらない。やっぱり汗を流してやらなくては――。このブームに乗って運動用品生産業者は大忙しの一年だった。メーカーからみて、この一年どんなスポーツに人気が集ったか、をのぞいてみると――。

夏は十六万円もするモーターボートがポンポンと売れたそうだ。

「若い人がグループで買うのが特徴のようだし、水上スキー用具もよく出た。いよいよ日本も大型レジャー時代ですね」と東京のメーカーは話す。海水着も三〇％売り上げが増し「グラブ、バットもよく売れた」と野球用具専門店も明るい。

商品別の売れ高はメーカーによって多少のちがいはあろうがA店では「NO1はバドミントンだ」という。「六月のユーバー杯で日本が優勝したのもブームの一因だろうが、それより、ちょっとした広場で家族全員が楽しめる魅力があるからでしょう。一セット四百円と手ごろな値段もあって五〇％増の勢い。いま正月用という二万セットの注文に生産が追いつけぬ状態です」

ある生産会社のランクづけは一に剣道用具、二にローラー・スケート、三にトレーニング・シャツ、四にサッカー・ボールとなっている。

「剣道は三十二年中学校の正課体育になってからぽつぽつと出だしたが、今年は一気に十万個突破した」。一個一万円前後からの少年用が多いが、強くたくましくという教育ママさんの願いがこもっているのだろう。

（44年12月28日、朝日新聞）

≪トマス杯アジア・ゾーン≫

決勝の相手はタイ？

インドネシアが試合放棄

西地区決勝 判定に不服

トマス杯アジア・ゾーンの決勝は、インドネシアが〝試合放棄〟をしたため、タイと日本との間で争われることになった。

アジア・ゾーン西地区決勝のタイ×インドネシア戦は、昨年末の予定がのび、一月十五、十六の両日、タイの首都バンコクで行なわれた。

第一日は単複各二試合がありシングルスにインドネシアが完勝したあと、タイは健闘してダブルス二試合を返し、2―2のタイ・スコア。

第二日は残り五試合が行なわれる予定だったが、この第二試合で、インドネシア選手が判定に不服をとなえたため、事態は紛糾、とうとうインドネシア側はコートを引き揚げて、残る対戦をボイコットしてしまった。

この第二試合は、第一セット15―12でタイのソカノンド選手が先取した。ところが、インドネシアのムルジャイ選手が、この直後、サイド・ライン上での審判の判定（アウトかインかの判定と思われる）に抗議して、コートを離れてしまった。

審判は「コート内に戻るように」と何度も呼びかけたが、ムルジャイは応ぜず、残りの試合に出るはずだった他のインドネシア選手団も「ブー」と異議を唱え、試合を拒否した。このため、審判はインドネシアが試合を放棄したものと判断、タイの勝利、ゾーン決勝進出が決まった。

なお、この日の第一試合はインドネシアが勝っているので、対戦スコアは、タイの「6―3」となる。

IBFに提訴 インドネシア

日本あくまでも〝国内開催〟へ

日本バドミントン協会は、新事態について、さっそく対策を協議した結果、これまで同様、日本でタイとの決勝戦を開催するとの態度を確認、IBFあて「日本開催を認めるよう」協力かたを打電、タイにも同様の趣旨の連絡をとった。

日本はこれまで決勝の相手をインドネシアと想定し、選手団の強化、選考を行なうとともに国内（京都）での大会開催準備を進めていた。

これは国内の方が①地元の利②競技の普及、宣伝③経費――などの点から、すべてに有利なため。タイとIBFが同意した場合、大会は二月の二十三日から三日間予定されている。

どこが相手でも確信

日本ト杯チーム小宮監督の話

どこが相手でも、勝たねばいけないし、その確信を持っている。ただ、インドネシアはシングルスは圧倒的に強かったが、タイはダブルスが強いので、その点を計算に入れて、いろいろ考えたい。

事件のあと、インドネシアのカジール監督は「国際バドミントン連盟（IBF）に提訴する」と発表したが、ルール上からタイの勝利がくつがえることはまず考えられない。

一部には、試合放棄は「インドネシアが勝利に自信がなかったのでは」との観測もあるとのこと。

第一日の成績、次の通り。

第一日
（1月15日、バンコク）

タイ 2（単 0―2 / 複 2―0）2 インドネシア

▼シングルス
ソムサク 0（1016―1518）2 ハルト○
サンゴブ 0（9―15 / 8―15）2 ムルヤ○

▼ダブルス
ナロン○チャバレット 2（15―14 / 15―7）1 ハルトノインデラトノ
サンゴシブラ 2（15―15 / 15―7 / 5―0）0 インドラヤ、ジャリテン

タイは〝ベテラン〟ぞろい

日本協会・村山事務局長（もと卜杯チーム・マネジャー）の話

新聞報道でのタイのメンバーは、一、二をのぞき、すべて前々回に活躍したベテランばかりだ。これが果してベテランの名に価いする選手か、あるいはロートルか…。いずれにしても日本開催なら有利。大きな声ではいえないが、東南アジア各国の審判の中には、かなり〝身びいき判定〟をくだす人もいる。

質問箱

問い　つぎに述べるのは毎日のわれわれの日課ですが、もし改善すべき点がありましたら、お知らせ下さい。

　このように規則的に行なうことはよいことでしょうか。もし変えるとしたら、どのようにしたらよいのでしょうか。

　また、先生が今までにバドミントンをやってこられて、感じたこと、試合についての注意や戦法などで、本に書いてないようなことがありましたら、お知らせください。（北海道・根室高、清水鉄志）

▽午後3時＝授業終了▽3時30分＝クラブ開始▽3時45分掃除終了、ランニング開始▽4時10分＝基礎打ち（サーブ、クリヤー、ドロップ、速球、スマッシュ、ヘアピンの順）▽4時40分＝2対1の練習試合▽5時10分＝一年生のフットワーク（基礎打ち）▽5時30分＝終了、ミーティング

答え　この質問は練習の日程の問題ですね。3時45分に掃除終了、後4時10分まで25分間ランニングということですが、準備運動との関係もあり、どのようなところをどんな方法で走っているかが問題になります。練習や試合との釣合いを考えて、効果的にしかも無理のないようにやって下さい。

　この時間にただ走るだけでなく、この前、第三回で答えたフットワークのトレーニング（第四号）をいれる場合もあってよいでしょう。

　次に4時10分から4時40分まで基礎打ちということで、基本的なストロークをサーブ（サービスが正しいとされています）、クリヤー、ドロップ、スマッシュ、ヘアピンの順で規則正しくやっているようですが、これは何も必ずこの順序でなければならないというものでもありますまい。適当に変化を与えることも大切ですし、今日は今週はこれに力をいれるという風に、ひとつのストロークに主力を注ぐこともあってよいと思います。多分そうやっていることでしょう。

　ここで、ちょっと気になるのは、次に30分の時間をさいて2対1の試合練習をするということです。何も2対1ときめてかかる必要はありますまい。

　基本的なストロークの練習とあわせて、各種の組合せ練習をすることも考えられますね。

　一年生の取り扱いですが、上級生がコートで練習している間基礎体力の養成のためのいろいろのトレーニングや、素振りをやることは、どの高校のクラブにもみられる姿です。

　部の激しい練習になれさせ、規律に従う習慣も大切ですが、なるべく早くバードやコートになれることも大切なので、効果があがるように上級生ぶりを発揮して下さい。

　いずれにしても、限られた時間、限られたコートで多くの部員をかかえて、成績をあげようという清水君等上級生の苦心が眼にみえるようです。くじけないで頑張って下さい。

　最後のおたずねはどうも問題の範囲が広すぎて、与えられた紙数では解答ができそうにありません。

　バドミントン上達の道に特効薬はありません。地道にこれはよいと思われる練習をつづけてゆくことが薬といえば薬です。

　テクニックや、戦法についてはこれからこの「バドミントン界」に巻を追って、いろいろの方が解説を試みられることになると思います。それらを参考にして下さい。

全日本学生ランキング

●男子団体

①中	学	学	学	学	学	学	学	学
②早	大	大						
③日	大	大	大	大	大	院	院	
④法	田							
⑤近	央							
⑥立	稲	本	政	畿	教	学	学	
⑦関								
⑧東						東	北	

●男子単

①本	大	大	大	大	大	大	大	大
②今	(中	中	立	法	法	日	法	中
③寺	(次	勉	之	一	夫	修	孝	雄
④梱	順	信	昌	芳	信	一		
⑤森	間	泉	前	尾	山	田	下	
⑥杉				野				
⑦池								
⑧岩								

●男子複

①森	田	尾	島	下	所	野	川	川
②本	間	昌	尾					
③梱	野	泉						
④今	草	島	山	合				
⑤草	島	山	合					
⑥杉								
⑦落								
⑧杉								

大）
大）
大）
大）
大）
大）
学
（法中法中法日関早
孝一昇雄雄雄樹一
信正　一光光秀憲
芳順昌　勉治修之準
夫次一　・・・・・孝
池鷲児岩田牧宮及
・・・・・・・・・
・・・・・・・・・

●女子団体

①日	学	学	学	学	学	学	学	学
②青	大	大	大	大	大	大	大	大
③日	女	子	体	院	育	育	子	子
④東	本	山	本	体	育	育	期	子
⑤東	日	青	日	本	女	子	短	女
⑥武								
⑦昭								
⑧大								

●女子単

①湯	木	中	坂	片	崎	口	川	本
②竹	高	小	石	浦	堀			
③堀								
④柿								

江子薫子子子子子子
（日女体大）
（新潟青陵短大）
（日学体大）
（日体大）
（日女体大）
（日体大）
（活水女短大）

●女子複

①相	沢	マ	チ	子	・	竹	中	悦	子	（新潟青陵短大）
②湯	木	博	江	子	・	本	間	恵	美	子	（日女体大）
③松	本	直	美	・	高	坂	薫				（青学大）
④石	崎	喜	代	子	・	小	片	千	恵	子	（日体大）
⑤小	山	登	茂	子	・	高	橋	さ	よ	子	（青学大）
⑥池	田	栄	子	・	篠	山	和	江			（東大阪短大）
⑦戸	崎	節	子	・	堀	川	栄	美	子	（日体大）
⑧大	塚	芳	子	・	池	尻	千	恵	子	（日女体大）

早わかり競技規則 ルール100問？

連載④

3. ポストとネット（続）

（規則第2、3条）

問19 シングルスだけのコートでは、ポストはどこへ立てますか。

答 シングルスのサイド・ラインの上です。ダブルス・コートでシングルスをやる場合は、ダブルスのサイド・ラインの上にたてたままで、一々移動しません。

問20 ポストをちゃんとラインの上に立てられないときは、どうしたらよいのですか。

答 サイド・ラインの側へ内立てるのは困ります。これでは正式の試合はできません。

ラインの外側へ立てた場合はネットの下を通過するサイド・ラインの位置を示すために、幅3・8㌢以上の薄いストリップかポストをネットの紐に垂直に立て、サイド・ラインに固定します。ストリップには白色のテープ等を用い、ネットの上縁から垂直におろして、サイド・ラインに固定すればよいのです。

問21 ポストがネットより上に出てはいけないのですか。

答 いけません。ポストの長さは地面から床上1・55㍍でネットの上縁の高さは、ポストのところで1・55㍍ときめられているからです。ですからポストのてっぺんにネットの紐を受ける切れこみをつけますが、この切れこみの深さが丁度ネットの紐の太さと一致していると一番好都合ですね。

問22 ネットの検定会があるそうですね。

答 昭和三十七年から日本バドミントン協会は、毎年一回以上、ネットの検定をやることになりました。それまで、バドミントンのネットは競技規則に明示された規格通りのものがほとんどなかったので、プレーヤーは本当に困っていましたが、これからは、日本バドミントン協会の主催、主管する大会には必らず検定合格ネットが使われますし、その他の大会も追い追い合格ネットでやるようになるでしょうから、プレーもやりよくなりますね。

問23 ネットで大事なのはどんな点ですか。

答 まず、ポストに張ったときに、丈が正しく76㌢あること、次に上縁のテープがはっきりした白色で、幅が3・8㌢（7・6㌢に2つ折り）あること、網目が1・6㌢～1・9㌢で、シャトルが抜けないこと。それから、網の色が茶褐色であることなどです。張るときは、ポストの所で地面（床上）から1・55㍍、中央で1・524㍍の高さになるようにしなければなりません。

問24 検定で合格した正しいネットには印しでもついていますか。

答 白色テープのどちらかの端に証票がつけてあって、日本バドミントン協会検定合格と書いてありますから、ぜひこの証票のついたネットで練習して下さい。特に、丈の短いネットで練習していると、いざ大会などでネット・プレーをするとき、非常にまごついて、すっかり自信を失なってしまうことがあります。

問25 ネットの中央は、床から1・524㍍に張るわけですね。何か手加減で張っているので、不安なんですが。

答 どうしても不安ですね。試合のときには、ネットが緩んで来ないか主審が常に気をつけることになっています。主審をするときには、身体検査に使う胸囲尺（長さ2㍍）をいつもポケットに入れておくとよいでしょう。また、もっと簡便な方法としては、運動靴をはいて真直ぐに立ったときネットの上縁が顔のどの辺りに来たとき、正しい高さか覚えておくとよいですね。うんと背の高い人だったら胸のどこら辺かということになりましょう。

問26 それから、ネットを張った場合に、ポストをネットの間に三日月形の空間があいていることがよくありますが、あれはいいんでしょうか。

答 あれはいけませんね。検定合格ネットには、あの隙間をなくすための紐がついていますから空間ができぬよう、ネットをポストに密着させなくてはいけません。大変よいところに気がつきましたね。

（この項終り）

□■□■

≫ ルールブックのお申し込みについて

「ルール100問」の原本である「バドミントン・ハンドブック」第一編＝競技規則100問集（付NBA現行競技規則）を次の要領で発売しています。

体裁はA5版60ページで、定価百八十円（送料別）ただし10部以上まとめて申し込んでいただければ、取り扱い費として一部につき三十円を割引きます。選手、指導者、愛好者必携の書として、ぜひ一冊、お手元に置くことをおすすめします。

◎申し込み＝東京都練馬区旭ケ丘一ノ五一（〒176）日本教職員バドミントン連盟・前田耕作あて

◎代金払い込み＝三菱銀行江古田支店、日本教職員連盟・前田耕作

◎昭和44年度全日本総合選手権大会（44年12月1～6日、東京・代々木第二体育館）

◆男子シングルス

▼一回戦

小島（神奈川・ヨネヤマ）2 1515 6 0 0 金原（岩手・金原電気）
谷口（東京・立大）2 15181 111 4 15 1 鈴木（東京・電々東京）
池田（東京・法大）2 1518 5 17 0 窪田（山梨・甲府市役所）
今泉（東京・中大）2 181 13 9 15 1 関（東京・早大体育局）
坂本（神奈川・カローラ）2 1515 7 6 0 浅野（群馬・三ッ葉電気）
梅野尾（東京・法大）2 1515 8 5 0 牛島（愛知・トヨタ）
杉田（神奈川・野高）2 1517 11 16 0 尾崎（富山・富山商）
西野（東京・ニシヤ）2 1515 3 8 0 遠藤（東京・日大）
宮永（東京・明治生命）2 1515 11 6 0 舟山（秋田・経大）
高林（富山・奥野敬商）2 1515 2 4 0 森谷（東京・東京）
杉山（山梨・秋山紙店）2 1515 8 6 0 寺前（東京・立大）
杉（東京・日大）2 1715 15 7 0 渡辺（神奈川・横浜市役所）

▼二回戦

岩下（東京・中大）2 1515 7 1 0 堺（東京・河崎ラケット）
本間（東京・中大）2 1515 1 2 0 横田（滋賀・彦根南中教）
森（東京・法大）（棄権） 星野（東京・電々東京）
安沢（愛知・トヨタ）2 1517 4 14 0 内田（群馬・桐生市商）
小島 2 1515 7 12 0 谷口
池田 2 1815 16 9 0 今泉
梅野尾 2 1515 7 6 0 坂本
西野 2 1515 9 5 0 杉田
高林 2 1815 13 12 0 宮永
秋山 2 1515 3 9 0 杉山
岩下 2 1515 3 9 15 1 森
本間 2 1515 4 5 0 安沢

▼準々決勝

小島 2 1815 13 7 0 池田
秋山 2 1515 6 15 1 高林
西野 2 1515 11 4 15 1 梅野尾
本間 2 1515 4 12 0 岩下

▼準決勝

小島 2 1515 6 14 0 西野
西野 2 1515 10 12 0 秋山
本間 2 1515 12 7 0 秋山

▼三位決定戦

小島 2 1515 11 6 15 1 本間
西野 2 1515 10 12 0 秋山

▼決勝

小島 2 1515 9 15 1 本間

◆女子シングルス

▼一回戦

篠山（大阪・東大）2 1211 9 5 0 工藤（愛知・豊田織機）
高崎（大阪・東大）2 1111 6 4 0 山上（東京・北辰電気）
高橋（東京・北辰電気）2 1112 7 10 0 篠山（大阪・東大阪短）
柿本（長崎・活水女短）2 1111 8 0 0 奈良岡（東京・東京）
高坂（東京・青学）2 1111 6 3 0 阿久津（栃木・真岡女高）
天野（岐阜・東海女短教）2 1111 0 2 0 外崎（青森・弘前聖愛高）
竹中（新潟・青陵短大）2 1111 2 2 0 細川（香川・琴平電鉄）
金子（愛知・トヨタ）（棄権） 石崎（東京・日体大）

▼二回戦

高橋（東京・北辰電気）2 1112 7 10 0 篠山（大阪・東大阪短）
高崎（大阪・東大阪高）2 1111 6 4 0 山上（東京・北辰電気）
篠山（大阪・東大阪短）2 1211 9 5 0 工藤（愛知・豊田織機）
柿本（長崎・活水女短）2 1111 8 0 0 奈良岡（東京・東京）
高坂（東京・青学）2 1111 6 3 0 阿久津（栃木・真岡女高）
天野（岐阜・東海女短教）2 1111 0 2 0 外崎（青森・弘前聖愛高）
竹中（新潟・青陵短大）2 1111 2 2 0 細川（香川・琴平電鉄）
金子（愛知・トヨタ）（棄権） 石崎（東京・日体大）

▼三回戦

高橋 2 1111 4 10 0 柿本
高坂 2 1111 8 5 0 天野
竹中 2 1111 10 12 5 1 金子
本間 2 1111 5 6 0 柴山
湯木 2 1111 5 6 0 相沢

▼準決勝

高橋 2 1111 4 0 0 柿本
竹中 2 1111 7 8 0 深沢（愛知・トヨタ自工）
石崎（栃木・真岡女高）2 1111 4 5 0 綾井（香川・百十四銀行）
堀川（東京・日体大）2 1111 5 7 0 陣内（京都・成安女高）
浦口（東京・日女体大）2 1111 6 9 0 山本（香川・琴平電鉄）
池田（大阪・東大阪短）2 1111 8 6 0 太田（愛知・トヨタ）
湯木（東京・日女体大）2 1111 1 0 0 細（群馬・谷境高）
相沢（新潟・青陵短大）2 1111 5 2 0 大橋（愛知・豊田織機）
本間（東京・日女体大）2 1111 3 2 0 山本（香川・百十四銀行）
柴山（大阪・東大阪高）2 1111 8 5 11 1 小片（東京・日体大）

▼準々決勝

高橋 2 1111 8 9 0 高坂
竹中 2 1111 5 11 1 本間
湯木 2 1111 3 1 0 池田
高木 2 1111 2 3 0 石崎
竹中 2 1111 8 0 0 高橋
湯木 2 1212 1110 0 高木
高橋 2 11 6 12 9 4 11 1 高木
湯木 2 1112 4 10 0 竹中
池田 2 11 2 11 8 7 11 1 浦口
石崎 2 1111 2 7 0 堀川

▼決勝

高橋 2 1111 3 11 1 本間

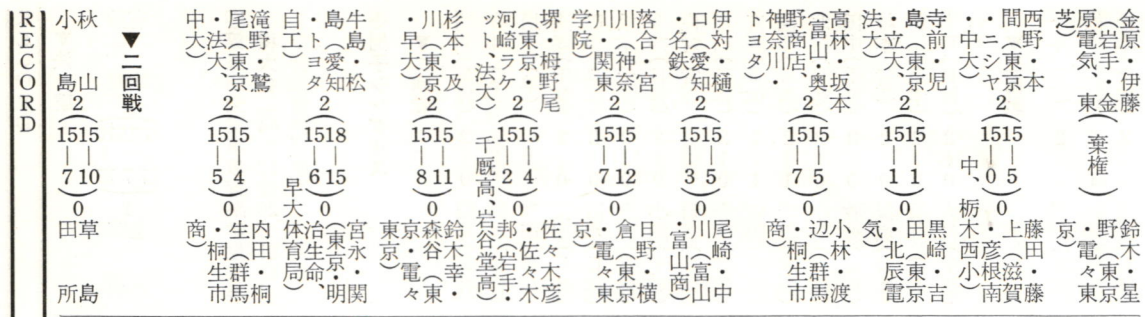
▼三位決定戦

湯木 2 1111 5 3 0 塩飽・武士（兵庫・富鉄広畑）
竹中 2 1111 3 1 0 池田
高木 2 1111 3 11 1 本間
湯木 2 1111 5 11 1 本間
竹中 2 1111 5 11 1 本間
高橋 2 1111 8 9 0 高坂
石崎 2 1111 2 7 0 堀川

◆男子ダブルス

▼一回戦

草島・田所（東京・法大）2 1515 5 3 0 塩飽・武士（兵庫・富鉄広畑）
杉山・牧野（東京・日大）2 1515 10 12 0 杉田・坪内（神奈川・立野高、高砂小）


▼二回戦
小秋 島山 2 1515 7 10 0 田草 所島
滝野・尾(東京・鷲2 1515 5 4 0 内田・桐生(群馬)商)
牛島・松(愛知・トヨタ自工)2 1518 6 15 0 宮永・関(東京・明治生命、早大体育局)
杉本・及川(東京2 1515 8 11 0 鈴木幸・森谷(東京・電々東京)
堺・栂野尾(東京・梶ヶ谷ラケット、法大)2 1515 2 4 0 佐々木彦(千厩高、岩谷堂高)邦(岩手・佐々木
落合・宮川(神奈川・関東学院)2 1515 7 12 0 日野・横倉(東京・電々東京)
伊対・樋口(愛知・名鉄)2 1515 3 5 0 尾崎・中川(富山・富山商)
高林・坂本(富山・奥2 1515 7 5 0 小林・渡辺(群馬・桐生市)商)
島寺前・児(東京・大立大)2 1515 1 1 0 黒崎・吉田(東京・北辰電気)
西野・本間(東京・ニシヤ2 1515 0 5 0 藤田・上(滋賀・藤南・彦根小、中・栃木西)
金原・伊藤(岩手・電気、東芝)金(棄権)鈴木・星(東京・野々東京)
▼決勝
小秋 島山 2 151015 1115 1 1 梅堺野尾
▼三位決定戦
本西 間野 2 1515 8 9 0 池森 田
▼準決勝
梅堺野尾 2 151215 1215 7 1 池森 田
小秋 島山 2 151513 11 1 18 1 本西 間野
池森 田 2 1515 1210 0 及杉 川本
梅堺野尾 2 1515 9 11 0 樋伊 口村
本西 間野 2 1515 2 4 0 安長谷 沢川
小秋 島山 2 1815 15 9 0 牧杉 野山
▼準々決勝
池森 田 2 151515 5 7 18 1 鷲滝 尾野
及杉 川本 2 1515 4 12 0 松牛 島島
梅堺野尾 2 1515 9 2 0 宮落 川合
樋伊 口村 2 1515 11 6 0 岩今 下泉
安長谷 沢川 2 1515 12 6 0 坂高 本林
本西 間野 2 1515 7 12 0 児寺 島前
牧杉 野山 2 1515 5 3 9 15 1 伊金 藤原
◆女子ダブルス
▼一回戦
小山・橋(東京・青学大)2 1515 8 7 0 崎・成安女都)陣内・岡(京高
綾井・福本(香川・百十四銀行)(棄権)脇田(岐阜・女高)・及川・富
深沢・金子(愛知・トヨタ自工)2 1515 5 10 0 大場・大阪(本・東大阪高)
間湯木・本(東京・日女体大)2 1515 5 2 0 大橋・辻(愛知・豊田織機)田・
柴山・高(大阪・東大阪高)2 151217 101516 1 山本・細(香川・川・琴平電鉄)
藤井・小(栃木・真岡女高)林・藤井(岡崎・永井・三菱京都重工)永井・下(三菱重工)2 1515 6 10 0
中藤・東(東京・女体大)2 1517 1215 0 井岡・三(菱京都重工)崎・永
小片・東(東京・日体大)2 1515 3 2 0 永山・下・徳(江戸川中教)
田仲・奈良岡(東京・電々東京)2 1517 9 14 0 大塚・尻(東京・池(東京・日女体大)
相沢・新(潟・竹陵短大)2 1515 4 3 0 高小 橋山
▼二回戦
天高 野木 2 151517 7 7 16 1 水高 野橋
竹相 中沢 2 151215 6 1511 1 本湯 間木
▼準決勝
天高 野木 2 1515 8 4 0 堀小 川片
水高 野橋 2 151315 8 15 7 1 高柴 崎山
本湯 間木 2 1515 5 4 0 高松 坂本
竹相 中沢 2 1515 2 1 0 金深 子沢
▼準々決勝
高木・野(岐阜・東海女教)2 1515 1 4 0 奈田 良岡仲
堀小 川片 2 1515 1 7 0 有木・井(東京・電々東京)上・
高柴 崎山 2 1515 3 7 0 上野・田(愛知・トヨタ自工)
高橋・野(東京・北辰電気)2 1515 4 3 0 光藤 中井
松本・坂(東京・青学大)高2 1515 12 4 0 永井 下か
本湯 間木 2 1515 7 13 0 池田(東・山大篠 本井(阪短)
金深 子沢 2 1515 3 4 0 福綾
杉杉 田田 2 1515 10 3 9 15 1 田森 中谷
▼三位決定戦
金安 子沢 2 1515 9 5 0 田森 中谷
有鈴 木木 2 1515 10 9 0 杉杉 田田
▼準決勝
安沢・金子(愛知・トヨタ自工)2 1515 11 7 0 橋山・本(東京・高北辰電気)
森谷・田中(東京・電々東京)(棄権)小山・小林(神奈川・県庁、コロムビア)
杉田川(神奈川・立高、コロムビア)2 1515 6 12 0 鈴木幸・奈良岡(東京・電々東京)
▼二回戦
鈴木・有木(東京・健2 1518 11 15 0 土星 井野
▼一回戦
星野・井(東京・土2 1715 14 3 0 長谷川・上野(愛知・トヨタ自工)
◆混合ダブルス
▼決勝
竹相 中沢 2 1515 8 3 7 15 1 天高 野木
▼三位決定戦
本湯 間木 2 151513 5 3 15 1 水高 野橋

▼決　勝

鈴木健2(18151015—17715)1金子
有木

▼準々決勝

今井2(1515—210)松下
佐倉2(15815—6158)1松本
森田2(1515—410)佐藤
杉本2(1515—105)木戸

▼準決勝

今井2(1515—280)佐倉
杉本2(15174—71415)1森田

▼決　勝

今井2(11—0)0杉本
(棄権)

◆男子シングルス

▼二回戦

門間(日体)2—0松井(日体)
今井(早)棄権鈴木(日体)
松下(早)棄権和田(日体)
遠藤(千葉)2—0玉田(日体)
田中(日体)2—0清水(日体)
松本(千葉)2—0上田(日体)
今井(日体)2—0小瀬(千葉)
佐倉(早)棄権須藤(日体)
森田(日体)2—0金田(日体)
斉藤(日体)2—1塚田(成蹊)
佐藤(日体)2—1米沢(千葉)
北村(日体)2—0小野(日体)
田中(千葉)2—0牧野(日体)
杉本(早)2—0保坂(日体)
藤尾(東学)2—0新井(早)
木戸(日体)2—0大沢(千葉)

▼三回戦

今井(早)2—0門間(日体)
松下(早)2—1遠藤(千葉)
松本(千葉)2—1田中(日体)
佐倉(早)2—0今井(日体)
森田(日体)2—0斉藤(日体)
佐藤(日体)2—1北村(日体)
杉本(早)2—1田中(千葉)
木戸(日体)2—0藤尾(東学)

▼準々決勝

今井2(1515—210)松下
佐倉2(15815—6158)1松本
森田2(1515—410)佐藤
杉本2(1515—105)木戸

▼準決勝

今井2(1515—280)佐倉
杉本2(15174—71415)1森田

▼決　勝

今井2(11—0)0杉本
(棄権)

◆男子ダブルス

▼二回戦　門間・木戸(日体)2—0谷浦・鷲尾(日体、東学)
松本・田中(千葉)2—1上田・北村(日体)　藤田・佐藤(日体)2—0宮崎重・保坂(日体)
佐倉・杉本(早)2—0坂・金田(日体)
森田・今井(日体)2—0須藤・宮崎雅(日体)　平井・古沢(慶)2—0藤尾・斉藤(東学)　今井・及川(早大)2—0遠藤・大沢(千葉)　田中・斉藤(日体)2—1西城・田中(学芸)

▼準々決勝

木門戸間2(1518—1217)0松田
佐本倉2(1515—27)0藤田
杉今井田2(1515—08)0古平
及今川井2(1518—1313)0斉田
木門戸間2(151511—71115)1杉佐本倉
今及川井2(1515—36)0今森井田
木門戸間2(1715—1512)0及今川井

▼準決勝

木門戸間2(1518—1217)0松田中本
佐本倉2(1515—27)0藤田
杉今井田2(1515—08)0古平井沢
及今川井2(1518—1313)0斉田中藤

▼決　勝

木門戸間2(1715—1512)0及今川井
今及川井2(1515—36)0今森井田
木門戸間2(151511—71115)1杉佐本倉
杉本2(1515—08)0佐倉
森田2(1515—410)佐藤
佐倉2(15815—6158)1松本
今井2(1515—210)松下

◆女子シングルス

▼三回戦

本間(日女)2—0日隈(日女)
加藤(東女)2—0小林(日女)
広沢(日体)2—0小杉(東学)
中島(日女)棄権谷島(独協)
宮本(日女)2—0柿沢(東女)
保坂(日女)2—0茂木(千葉)
谷沢(日女)2—0五十嵐三(東女)
小片(日体)2—0高橋(日女)
北田(東学)棄権浦口(日女)
稲木(日女)2—0林(千葉)
堀川(日体)2—0横島(東女)
落合(日女)2—0栗原(東女)
湯木(日女)棄権田中(東学)
松山(日女)棄権生田(独協)
池尻(日女)2—1原田(東学)
横田(日女)2—0中村(日体)

▼四回戦

本間(日女)2—0加藤(東女)
広沢(日体)2—0中島(日女)
宮本(日女)2—0保坂(日女)
小片(日体)2—0谷沢(日女)
稲木(日女)2—0北田(東学)
堀川(日体)2—0落合(日女)
湯木(日女)2—0松山(日女)
横田(日女)2—0池尻(日女)

▼準々決勝

本間2(1111—120)0広沢
小片2(12611—10112)1宮本
堀川2(1111—320)0稲木
湯木2(1111—020)0横田

▼準決勝

小片2(1111—520)0本間
湯木2(111011—31231)1堀川

▼決　勝

湯木2(1112—090)0小片

◆女子ダブルス

▼三回戦　稲木・小林(日女)2—0金子・越川(日体)　宮本・落合(日女)2—0谷島・原田(独協)　浦口・谷沢(日女)2—0林・松村(千葉)　小片・堀川(日体)2—0柿崎・栗原(東女)　湯木・本間(日女)2—0三原・高橋(日女)　五十嵐区・加藤(東女)2—1小杉・原田(東学)　横田・保坂(日女)2—0田中・馬淵　大塚・池尻(日女)2—0根岸・水谷(東学)

▼準々決勝

宮落合2(1515—91)0稲木
本2(1515—91)0小林
谷浦口2(15176—111415)1堀川
小片
湯木2(1515—610)0加藤
本間
谷浦口2(1515—36)0落宮合
湯木本間2(1515—38)0保横坂
横田2(1515—59)0池大尻塚

▼準決勝

宮落合2(1515—91)0稲木林
谷浦口2(15176—111415)1堀川
湯木2(1515—610)0加藤五十嵐区
横田2(1515—59)0池大尻塚

▼決　勝

湯木本間2(1515—1212)0谷浦口

◎第五回全関東教育系学生選手権大会（44年12月20、21日、千葉県営体育館）

男子宮城工、女子は新庄北が初優勝

☒第一回東北高校新人大会
（45年1月5、6日・弘前市東奥義塾高体育館）一、二年生のみ出場、団体戦で行なわれた。男子14、女子13校が参加、会場の平均気温マイナス5度。

【男子団体】

▼一回戦

青森商 2—0 盛岡第四（岩手）
○北畠 2(15 15 15)0 宇夫方
後藤 (15 10 15)3 小向

弘前工 2—0 秋田工（秋田）
○阿部 2(15 15 15)0 角張
（青森）

仙台三 2—1 専大北上（岩手）
○工藤 2(15 15 15)0 小沢
西沢 (18 16 15)13 阿久津

○工藤 2(15 15 15)0 鹿島
（宮城）

弘前実 2—0 千厩（岩手）
○八幡部 2(15 15 15)1 高橋
八幡 (15 15 15)10 阿部

○阿部 2(17 15 15)0 阿部
（青森）

○浅利 2(15 15 15)0 菅原
（青森）

宮城工 2—0 黒沢尻北（岩手）
○小川原 2(15 15 15)0 佐藤
市 (15 15 15)8 豊田

○小原 2(15 15 15)0 佐藤
（宮城）

東奥義塾 2—1 山形高（山形）
○佐藤 0(6 15 15)2 後藤
斉藤 (9 15 15)10 田苗○

○斉藤 2(15 15 15)1 田苗
（青森）

○佐藤 2(15 15 15)1 後藤
（青森）

▼二回戦

日大山形 2—0 青森商（青森）
○米山 2(15 15 15)0 後藤
渋谷 (15 15 15)9 北畠

○橋本 2(15 15 15)0 阿部
（山形）

仙台三 2—0 弘前工（青森）
○八幡部 2(15 15 15)0 西沢
（宮城）

○八幡 2(15 15 15)1 工藤
（青森）

宮城工 2—1 弘前実（青森）

【女子団体】

▼一回戦

宮城工 2—0 日大山形（山形）
○小原 2(15 15 15)1 斉藤
（宮城）

○市川原 2(15 15 15)0 斉藤
小原 (15 15 15)9 佐藤

○小原 2(15 15 15)1 橋本
市 (15 15 15)11 今井

▼決勝

宮城工 2—0 東奥義塾（青森）
○市川原 2(15 15 15)0 阿部
（宮城）

日大山形 2—0 仙台三（宮城）
○今橋本 2(15 15 15)0 阿部
井 (15 15 15)7 八幡

○橋本 2(15 15 15)0 阿部
（山形）

東奥義塾 2—0 秋田経大付（秋田）
○佐藤 2(15 15 15)0 中川
（青森）

○斉藤 2(15 15 15)0 山影
（青森）

▼準決勝

○小川原 2(15 15 15)0 木村
（青森）

○市川原 2(15 15 15)1 浅利
（宮城）

小原 (12 7 15)2 木村○

○市川 2(15 15 15)1 浅利
（宮城）

○斉藤 2(15 15 15)0 山影
（青森）

○木村 2(15 15 15)0 外崎
（青森）

造岡市立 2—0 盛岡第二（岩手）
○神内 2(15 15 15)0 時館
竹 (15 15 15)6 小野寺

○神 2(11 12 11)1 小野寺
(11 6 7)7

新庄北 2—0 聖愛（青森）
○木村 2(15 17 15)0 斉藤
橋 (17 15 11)15

○高橋 2(15 17 15)0 斉藤
（山形）

平商 2—0 盛岡第二（岩手）
○作野 2(15 15 15)0 高橋
（福島）

○伏見 2(11 11 11)0 斉藤
（福島）

○千葉 2(15 15 15)0 高根沢
小鹿 (15 15 15)6 田

○兵庫 2(11 12 11)0 阿部
（青森）

東奥義塾 2—0 黒沢尻南（岩手）
○阿部 2(11 11 11)1 平井
（青森）

○高橋 2(12 10 11)1 神
（秋田）

敬愛 2—0 木造（青森）
○柴田 2(15 15 15)0 神内
高橋 (15 10 15)5 竹

○阿部 2(17 15 15)0 奥谷
高橋 (15 14 15)3 平井

後浪 2—0 岡羽（青森）

▼二回戦

▼準決勝

平商 2—0 敬愛（秋田）
○助川 2(11 11 15)0 高橋
（福島）

○作野 2(15 15 15)0 柴田
（福島）

○我妻 2(11 11 15)0 佐藤
（福島）

塩釜女子 2—0 羽後（秋田）
○我妻 2(15 15 15)0 高橋
石垣 (15 15 15)8 阿部

○清水 2(11 11 15)0 兵庫
（宮城）

○矢口 2(15 15 15)0 小鹿
（秋田）

新庄南 2—0 東奥義塾（青森）
○伏見 2(11 11 15)0 高橋
（山形）

助川 (15 15 15)7 木村○

○助川 2(15 15 15)0 高橋
（福島）

▼決勝

新庄南 2—0 平商（福島）
○清水 2(15 15 15)0 我妻
（山形）

○矢口 2(15 15 15)0 石垣
（秋田）

○矢口 2(12 11 10)0 伏見
（秋田）

○清水口 2(15 15 15)0 草野
矢口 (15 11 10)8 作山

〈表紙〉



永田紀子（ながたのりこ）
浦辺日佐夫ワールド・ダンサーズ

倉加代子の次いでの姐御（あねご）株が永田紀子だ。

○……本人は「NO1のNO6です」と謙遜するが、これは六人のレギュラーのうちで一番小柄だからで、踊りに年季もはいっていれば素質もカンも抜群。

調子に乗った時「これが同一人か？」とまちがうぐらいダイナミックで素適な踊りをする。

○……〝清潔なエロティシズム〟で名を売ったNHKテレビ〝歌の祭典〟のレギュラー『スタジオ・NO1ダンサーズ』が、今春『浦辺日佐夫ワールド・ダンサーズ』と、ころも替えした。

そのなかでキャプテン格の名「子供の時から踊ってばかりいて……。バドミントンは初めてですが、なかなか面白そう。これを機会にみんなでやってみるつもり」だそうだが、そのかっこう（写真）は「なかなかイカス」と好評。デザインや洋裁はクロウトはだしだと定評。

○……今年一年間〝歌の祭典〟でそのダイナミックな踊りと脚線美をあますところなく、茶の間のファンにふりまいてくれよう。ついでにバドミントンも巧くなってほしいものである。

身長155㌢、体重46㌔。以下、寸法は上から83、58、86、足は22・5㌢。

≪おしらせ≫ 本誌を運動具店でも販売

『バドミントン界』を今後、全国主要スポーツ用品店でも販売することになりました。

おかげさまで、この雑誌の売れゆきも、日ごとに伸びつつあります。この間、読者のみなさんからは「なぜ、一般の書店でも買えるようにしないか」という要望がかなり強くなってきています。

これには、いろいろむずかしい問題もあるので、その趣旨にそうよう、目下、検討を重ねておりますが、編集部では、とり合えず、バドミントン用具メーカー各社のご協力のもとに、全国の主要なバドミントン用具を扱っているスポーツ用品店の店頭でも、販売いたすことにしました。お住いの近くの店にお問い合わせ下さい。

愛読者へのお願い　振替用紙で編集部あて、直接、申し込まれる方のなかに「何号から」と書いていない場合がしばしばあります。

ことわり書きがない場合は、新しい号からと、当方で判断してしまいますので、必らず「第何号から」「第何号は不要」「第何号だけ何部ほしい」というように、必要なことを、はっきり記入して下さい。

また、あて先き不明などで雑誌が舞いもどることもしばしばありますので、送り先きは、わかりやすい字で、はっきり書いて下さるよう、お願いします。

編集後記

○…テレビの人気番組〝歌の祭典〟で好評判の『スタジオNO1ダンサーズ』現在（浦辺日佐夫ワールド・ダンサーズ）のメンメンが、今号からさっそうと表紙に登場した。以下、六人のメンバーが続いて登場する。

一昨年、週刊文春の好評シリーズだった〈天下の美女〉にも紹介された通り、そのプロポーションはいずれも圧巻。乞う御期待！

○…待望の第三種郵便物認可がやっとおりて、編集子はじめ協会関係者もホッとひと息というしだい。

しかしこれは第五号からで、それ以前の分は依然、一冊三十五円の送料がかかります。ご協力をお願いします。

郵便物の遅滞から、年末、年始にかけて愛読者諸氏にご迷惑をおかけしましたが、ご寛容のほどを。

○…一部で「三号まで続けば上出来」と、冷笑？　された。「バドミントン界」もおかげで六号です。今後は内容も再検討し質量ともに充実したものに育てあげたいと期しています。

バドミントン・ファンをより多く獲得して、「バドミントン界」がより多く読まれますよう愛読者諸賢によるPRを期待します。（M）

○…地方からの話題や大会の記録などが、このところ、あいついで入稿するようになりました。うれしいかぎりです。この雑誌は、あくまで愛読者のみなさんのためのもの。〝北から南から〟や〝質問箱〟を常時、見開きの2ページにして、そのほか、読者の方々同士のお便り交換欄などもつくっていきたいというのが、私たちの願いです。

○…今号から記者各位による〝提言シリーズ〟を始めました。広い角度からスポーツ界や、社会をながめている記者たちの目に、バドミントンがどう映っているか。その前向きの批評は必ずや、バドミントン競技界にプラスと期待しています。（G）

【バドミントン界】　第六号
昭和45年1月25日 印刷
昭和45年2月1日 発行
編集兼発行人　川端　昇市
発行所　東京都渋谷区神南町25
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都江東区永代一の五の二
有限会社　和田印刷所
定価　一部　百円

次号予告

正月、全国ブロックから選抜された高校生男女が、東京で強化合宿を行なった。次代のホープたちが、ここでなにを学んだか、なにを感じたかを、ワイド特集でお贈りし、全国十万といわれる高校生のみなさんの参考にしたいと思っています。

もう一つの企画は全国指導者研修会の報告です。よい選手をつくるには、よい指導者が大ぜい必要です。先生がたは、よきコーチであるため、なにを研究されたか——。

グラビア写真はチャンピオンズ・トーナメントと、ト杯合宿風景です。

競技会としては、恒例の社会人×学生対抗戦が予定されていますが、もし、ト杯のアジア決勝が間に合えば、速報だけでも入れたいと思っています。

【主な内容】

▽高校選抜合宿から
▽指導者研修会
▽連載「百万人のバドミントン上達法」
　伊藤基記、毛利清志、遠井稔男先生執筆
▽北から南から
▽質問箱
▽読者から
▽私の場合
▽提言シリーズ第二回
▽写真グラフ（チャンピオンズ・トーナメントから）

……ご期待下さい……

日本バドミントン協会検定合格ネット・メーカー

松本製網株式会社　大阪府八尾市福万寺町4-72　TEL 0729 (2) 3217
◎ 20／12　倉敷ビニロン（MATVMOTO）

鐘屋産業株式会社　東京都文京区本郷3-17-2　TEL 03 (811) 3773
◎ ナイロン　A級　◎ 綿　B級

（株）寺西喜商店　大阪府八尾市福万寺町4-31　TEL 0729 (2) 3210
◎ バドミントン・ネット　C検定

（株）ジイティヤング　本社　大阪市南区東平野町2-25
支社　東京都墨田区本所1-36-2　TEL 03 (623) 7155
◎ 20番手　12本クレモナビニロンテトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　テトロン引紐
◎ 20番手　12本綿　クレモナロープ引紐

ミセキネット製作所　埼玉県北葛飾郡幸手町中1-7-4　TEL 04804 (2) 0379
◎ ミセキ　VA　◎ ミセキ　A

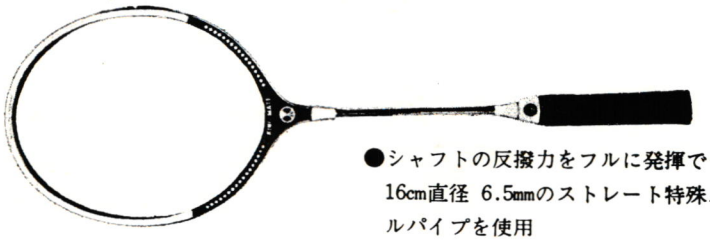
反撥力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





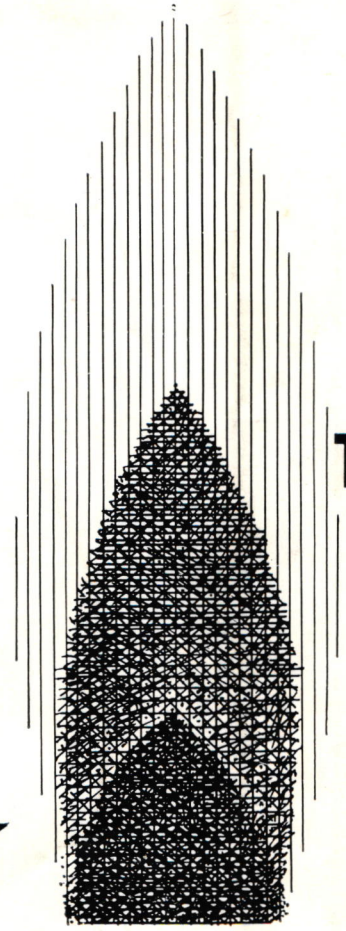
●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

サンバタ

株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話（377）4401（代表）

月刊「バドミントン界」
第六号
昭和四十四年十二月二十三日第三種郵便物認可
昭和四十五年二月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所
東京都渋谷区神南町二五
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百円



東京瓦斯株式会社

東京都中央区八重洲1の3
電話(273)0111(大代表)